平成 24(2012)年度 自己点検·評価報告書

秋田看護福祉大学

目 次

はじめに	. 1
第1章 理念及び使命・目的	. 2
1. 建学の精神	2
2. 使命・目的	2
3. 特色•個性	3
第2章 沿革と現況	. 4
1. 沿革	4
2. 現況 [自己評価および改善計画]	
第3章 教育研究組織	. 7
1. 管理運営	7
(1) 管理組織	
(2) 運営組織	
(3) 看護学科	
(4)福祉学科	
(5) 教授会	
[自己評価および改善計画]	
2. 平成 24 年度 秋田看護福祉大学の目標	1 4
[自己評価および改善計画]	1 4
3. 自己点検評価	1 4
(1)平成 23 年度「大学機関別認証評価」	1 4
(2)自己点検・評価委員会活動状況	1 7
(3)大学満足度調査	
[自己評価および改善計画]	2 6
4. 広報活動	2 7
「自己評価および改善計画]	2 8

第4章	教育 3	3	0
1. 入学		3	0
(1)	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)	3	0
(2)	入学選抜方法(平成 25 年度)	3	О
(3)	入試区分別 求める学生像	3	2
(4)	志願者・入学者の状況	3	4
(5)	平成 24 年度「新入生研修会アンケート」結果	3	8
[自己]	評価および改善計画]	3	9
2.「高	校~大学」移行教育	4	0
(1)	講義等	4	О
(2)	入学前教育	4	1
[自己]	評価および改善計画]	4	3
3. 教育	「課程	4	3
(1)	教育目標	4	3
(2)	カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)	4	3
(3)	カリキュラム	4	5
(4)	成績評価・単位認定・進級要件・実習履修要件	5	3
(5)	保健師および助産師科目の履修	5	3
(6)	卒業要件単位数	5	4
(7)	ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	5	5
[自己]	評価および改善計画]	5	6
4. 学僧	5支援	5	6
(1)	学修支援体制	5	6
(2)	卒業率・退学率	5	8
[自己]	評価および改善計画]	5	9
5. ファ	・カルティ·デベロップメント (FD) 推進活動	6	0
(1)	学生による授業評価アンケート	6	0
(2)	学生による臨地実習評価(看護学科)	6	2
(3)	学生の臨地実習における「目標達成」についてのアンケート(看護学科)	6	4
(4)	FD ワークショップ	6	5
(5)	FD 講演会	6	6
(6)	公開授業	6	6
[自己]	評価および改善計画]	6	6
第5章	学生6	3	8

1. 学生生活	6	8
(1)教育指導室	6	8
(2)保健室の利用	6	8
(3) 学生会・クラブ・サークル活動	6	8
(4)学生の意見・要望の把握	6	9
(5) 保護者懇談会	6	9
(6)ボランティア活動	7	0
(7)国家試験対策	7	0
[自己評価・改善計画]	7	2
and the Australian	_	_
2. 奨学金制度		
[自己評価・改善計画]	7	3
3. 就職支援	7	3
(1) 就職支援活動		
(2) 卒業生への就職支援アンケート		
[自己評価および改善計画]		
第 6 章 地域貢献活動	3	3
1. 地域の委員会・審議会等への本学教職員の派遣	8	3
2. 講演等	8	3
	Ŭ	Ŭ
3. 大学公開講座	8	4
	_	_
4.「大学コンソーシアムあきた」の事業	8	5
5. 学生と共に! ピアカウンセリング活動	8	7
6. 学生と共に! 鹿角市地域力再生支援事業への協力	^	4
0. 于工と人に、	9	1

はじめに

秋田看護福祉大学(以下「本学」)は平成17年(2005)年4月、秋田県大館市に看護福祉学部の1学部に2学科(看護学科、社会福祉学科)を持つ大学として開設された。その前身は地域社会学科、看護学科、人間福祉学科を有する秋田桂城短期大学である。秋田桂城短期大学は秋田県から求められていた看護・介護の人材育成の要望と大館市を中心とした「秋田桂城短期大学支援協議会」の支援により、地域づくりや地域産業の担い手の養成を実践するため、秋田県北初の高等教育機関として平成8(1996)年に創設された。その後、全国的に拡がった大学教育による看護師養成の高まりと「秋田看護福祉大学支援協議会」(大館市、鹿角市、北秋田市、小坂町、上小阿仁村)を中心とする地域に支えられ、本学が誕生した。本学は建学の中心をなす「実学」への取組みをさらに強化し、地域社会の発展への貢献を教育研究の目標として保健・医療・福祉領域の人材を育成することを目的に、看護・福祉系大学へと転換した。設置者は学校法人秋田経済法科大学(現・学校法人ノースアジア大学)である。

現在、日本は世界で類をみない超高齢社会の中にあり、国際社会から注目されている。 福祉国家としてのあるべき姿を求め、それに寄与する人材を養成することが本学の使命で もあることは、秋田桂城短期大学の開学後 17 年が経過しても変わりはない。

平成 21(2009)年、社会福祉学科は精神保健福祉士の養成を加え、福祉学科と改称した。 それにより、本学は看護師・保健師・助産師・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士 を養成し、医療・保健・福祉領域の人材を育成している。

本学は平成 23(2011)年に大学機関別認証評価を受けた。その結果、大学運営と教育研究に関するいくつかの課題が明確になった。さらに、近年の社会情勢の急激な変化の中で、日本の教育のあり方が厳しく問われていることから、本学は自己点検・評価委員会が中心となって全学的にそれらの課題に取組み、積極的に本学の未来像を構築するべく検討を重ねている。この「平成 24 年度秋田看護福祉大学自己点検・評価報告書」はそのベースとなるものである。

平成 25 年 3 月 31 日 秋田看護福祉大学

学長 田中禮子

<秋田看護福祉大学自己点検・評価委員会>

委員長 :田中禮子(学長)

副委員長:赤羽卓朗(福祉学科 学科長・教務委員会委員長)

水木暢子 (看護学科 学科長・教務委員会委員長)

熊谷浩司(事務部マネージャー・広報委員会委員長)

委員: 岩間薫 (ファカルティ・デベロップメント推進委員会委員長)

大瀬富士子 (就職委員会委員長)

工藤久(入試委員会委員長)

柴田博 (学生委員会委員長)

日景真由美 (図書委員会委員長)

第1章 理念及び使命・目的

1. 建学の精神

本学の建学の精神は「真理・調和・実学」である。この建学の精神は、秋田県が生んだ 偉大な先駆者であり経世学者であった佐藤信淵が説いた「真理」、学校法人ノースアジア大 学(以下「本法人」)の創立者古田重二良が述べる「調和」を掲げ、そして人間社会に実学 (科学的実用の学問)を生かす学風を培うものである。

本学は本法人の組織の中にあり、本法人の建学の精神である「真理・調和・実学」を前身の秋田桂城短期大学から受け継いでいる。

この建学の精神は、本法人の初代理事長である古田重二良が定めたものである。古田重二良は秋田県出身であり、日本大学の理事長・会頭を勤めた。古田重二良は高等教育を受ける手段が極めて限られていた秋田県の現状を憂い、時代を担う郷土の若者たちに高等教育と私学教育を提供し、地域社会の発展に貢献できる人材の養成を目指して昭和 28(1953)年4月、秋田県秋田市に学校法人秋田短期大学(商経科)を設置した(後の学校法人秋田経済法科大学、現在の学校法人ノースアジア大学)。

この建学の精神を本学の使命・目的および教育目標に照らすと、次のように説明できる。

本学は「真理」の探究を学問・研究の根本理念とすると共に、人間としてのあり方、保健・医療・福祉専門職としてのあり方を求める態度を養うことを教育研究活動の基本理念とする。

「調和」は社会に生きる基本である。本学は知性と人間性の調和、知識と技術の調和が とれた専門職を育成することを目標にしている。すなわち、本学は教養・専門知識・技術 と共に、コミュニケーション能力の修得によって、異世代や異職種の人たちとの相互理解 や融和を図り、人を大切にし、「調和を尊ぶ精神」を持った人材を育成する。

「実学」は実践的・科学的実用の学問を意味する。本学は保健・医療・福祉分野の科学的・実践的研究を行い、専門知識と技術を科学的に、実践的に教授し、社会に役立つ人材を育成する。

(学校法人ノースアジア大学寄附行為第4条、大学案内、学生便覧、学校法人ノースアジア大学ホームページ、秋田看護福祉大学ホームページ)

2. 使命・目的

本学の使命・目的は秋田看護福祉大学学則に次のように明示されている。

「秋田看護福祉大学は、教育基本法に則り、幅広い教養教育との密接な関連のもとに、保健・医療・福祉領域における奥深い専門教育を教授し、豊かな人間性と知性、高度な専門知識をもって社会に貢献できる人材を養成するとともに、独創的で実際的な研究活動を行い、その研究成果を還元することにより、地域社会や国際社会の発展に寄与することを目的とする。」

(秋田看護福祉大学学則第1章総則第1条)

わが国の少子高齢化を支える「保健・医療・福祉」を担う人材の確保と質の向上はます

ます重要度を増すことが予測される。日本の未来を支える人材の育成の場として、本学の 役割も責任も大きなものとなっている。

3. 特色 · 個性

1) 実践型カリキュラムによる少人数教育

小規模大学のメリットを生かし、1年次から少人数教育に取り組んでいる。それは人数のみではなく、一人ひとりの学生に目の行き届いた指導を実践し、教員と学生の密接な関係をつくり、人を大切にする少人数教育を意味する。この精神は、学生が卒業後も人を大切にする"こころ"(調和の精神)を持って仕事に励み、人生を生きていく社会人になることに繋がる。

本学のカリキュラムは看護師・保健師・助産師国家試験受験資格(看護学科)、介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格(福祉学科)という6つの国家試験受験資格を得ることができるように構成されている。そのため、これらの職業に共通するコミュニケーション能力の教育を重視し、知識と技術が調和し、倫理観に裏付けられた実践力のある学生を育てることを目標に、地域の保健・医療・福祉に携わる方々の協力を得てこれらの人材の育成を行っている。

2) 充実した学修支援とキャリアサポート

「Face to Face」(お互いの顔がすぐそこに見えるほど、学生と教職員との距離が近い)をキーワードに、クラス担任や卒業研究・ゼミナール指導教員が中心となって、一人ひとりの適性や能力を的確に把握してきめ細かい充実した学修支援と進路指導を行っている。さらに、国家試験対策、公務員試験対策、合同就職面談会、卒業生を招いての就職ガイ

ダンス、マナー講座などを行っており、開学以来 100%の就職率を維持している。

3) 地域貢献

本学は地域に支えられて充実した教育研究活動を行っている。平成 16 年から始めた「ピアカウンセリング」関連事業は地域貢献事業として確固たる地位を築いている。

また、「鹿角市地域力再生支援事業」(旧「鹿角市集落支援事業」)への協力など、地域に根ざした大学としての実績を積んでいる。これらの地域貢献事業は学生と教員の参加により行われている。

さらに、大館市を中心とする市町村の審議会・委員会の委員として教職員を派遣し、また、中学校・高校のキャリア教育への協力など、地域社会の発展に寄与している。

(本学ホームページ、大学案内)

第2章 沿革と現況

1. 沿革

平成 7(1995)年 12 月 秋田桂城短期大学設置認可

平成 8(1996)年 3月 校舎竣工

平成 8(1996)年 4月 大館市に秋田桂城短期大学開学

(地域社会学科・看護学科・人間福祉学科)

平成 9(1997)年 4月 学歌制定

平成 16(2004)年 11 月 秋田看護福祉大学設置認可

平成 17(2005)年 4 月 秋田看護福祉大学開学

(看護福祉学部 看護学科・社会福祉学科)

平成 21(2009)年 4 月 社会福祉学科を福祉学科に名称変更

2. 現況

【大学名】 秋田看護福祉大学

【所在地】 秋田県大館市清水二丁目3番地の4

【校地・校舎】 校地 40,669.00m² 校舎 11,740.7m²

【学部の構成】 看護福祉学部:看護学科、福祉学科

【学生数】

◆在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

		1年生	2年生	3 年生	4年生	合計
	男	18	16	12	9	55
看護学科	女	46	42	45	50	183
	計	64	58	57	59	238
	男	17	21	18	18	74
福祉学科	女	17	14	16	13	60
	計	34	35	34	31	134
	男	35	37	30	27	129
合 計	女	63	56	61	63	243
	計	98	93	91	90	372

◆卒業者数

	Ā	看護学 科	4	社会	福祉学	科*	年	度卒業	者	卒業者 通計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
平成 20 年度	9	40	49	17	17	34	26	57	83	83
平成 21 年度	14	40	54	13	15	28	27	55	82	165
平成 22 年度	12	42	54	26	13	39	38	55	93	258
平成 23 年度	9	51	60	11	15	27	20	66	87	345
合 計	44	173	217	68	60	128	111	233	345	345

^{*}平成21年4月福祉学科に改称した。 平成24年度に最初の卒業生が出る。

◆教員数とその構成

専任教員 33 人 兼任教員 46 人

(平成24年5月1日現在)

	教授	准教授	講師	助教	合計
20代					
30代		2		2	4
40代	1	2	3	4	10
50代	1	2	3		6
60代	6		2	1	9
70代	4				4
	12	6	8	7	33
合計	男 4	男 3	男 2	男 2	男 11
	女 8	女 3	女 6	女 5	女 22

【職員数】正職員8人、その他の職員7人 計15人

[自己評価および改善計画]

学生数は収容人数 360 人の 1.03 倍である。学科別では福祉学科が収容人数の 0.84 倍、看護学科が 1.19 倍であり、看護学科の教育上の負担が重くなっている。特に看護学科の演習・実習における教育効果を考え、各学年において入学者が定員の 1.10 を超えないようにしたい。現在、演習・実習においては、実習補助者を加え、学生 10 人に指導者 1 人の体制をとっている。

福祉学科では定員を満たしていない。本学の入試広報活動は「福祉」の仕事について高校生・高校教員・保護者に理解して貰うことから出発した。その効果が徐々に現れ、自ら「福祉」に進みたいと思う高校生が出てきているが、まだ十分とはいえない。今後も工夫を凝らし、福祉学科・看護学科ともに、高校生が福祉・看護の道を理解して進学するように情報提供に努めなければならない。

教員数は設置基準を満たしているが、教授数は 3 人の不足である。また、教員の高齢化 も深刻である。 資格取得を目的とする大学として、病院や施設の現場で働いている方々による講義・演習、医師による医療に関する講義が必要であるため、本学の非常勤講師の人数は多くなっている。

大学教育を幅広い視野でとらえ、人間性豊かな看護職・福祉職を育成する上で、教員の多様性も必要である。現在、専門分野に包括される内容には様々な分野の知識・技術・考え方が乗り入れ、それらが統合されたものとなっている。人間を対象とする看護・福祉の分野も例外ではない。本学の教養・総合科目は専門科目の学修内容をより深く理解し、卒業後の専門性をより豊かなものにすることを視野に編成されている。したがって、これらの分野の専任教員と学生との関わりが学生にとって有益になると考える。

教員確保の悩みは地方の小さい大学としてなかなか解決のめどがつかない問題である。 4 年制大学卒の看護職者が多くなっていることは確かであるが、教員希望者はほとんどいない。したがって、現在は、定年後の看護師や教員の採用が多くなっている。このことが教員高齢化の大きな要因である。教員の年齢構成は大学の将来に影響するため、改善が必要であるが、その解決には時間(年数)が必要である。

福祉学科においては、教員講習会の受講者を増やし、なるべく多くの教員が実習等を担当し、教員の負担を減らし、授業の準備に費やす時間を確保する必要がある。

第3章 教育研究組織

1. 管理運営

(1) 管理組織

本学の設置者は法人ノースアジア大学である。その管理運営は「学校法人ノースアジア大学寄附行為」「学校法人ノースアジア大学組織規程」および関連規程により行われている。

本法人は、日本国憲法及び教育基本法を基本法規として、学校教育の基準である学校教育法・大学設置基準、私学の設置・運営の基本となる私立学校法等を遵守し、それらに基づいて寄附行為、学則、その他の学内諸規程・要綱などを制定している。

理事会は学校法人の業務を決定・執行する権限を与えられている理事によって構成され、 法人の代表権は理事長にのみ与えられている(寄附行為第6条)。理事の定数は5人以上8 人以内である。理事会は、予算、決算、借入金、財産の管理・運営、事業計画、寄附行為 の変更、学校・学部・学科の設置・配置、学則・規程の制定・改正・廃止、収容定員の変 更、学納金の改訂、役員・評議員の選任・解任、学長指名にかかる同意など、重要な事項 について審議・決定している。

評議員会は本法人の合議制の諮問機関である。寄附行為第 19 条により、理事長が必要と認めた事項について、意見を述べることを職務としている。本学の学長は評議員として 法人運営に参画している。

本法人の管理運営に関する業務は理事長総室・法人事務部が行っている。法人事務部は 人事課、総務課、経理課からなっている。本学の事務部(学務課、総務課)は理事長総室 および法人事務部との密接なコミュニケーションのもと、本学の業務を行っている。

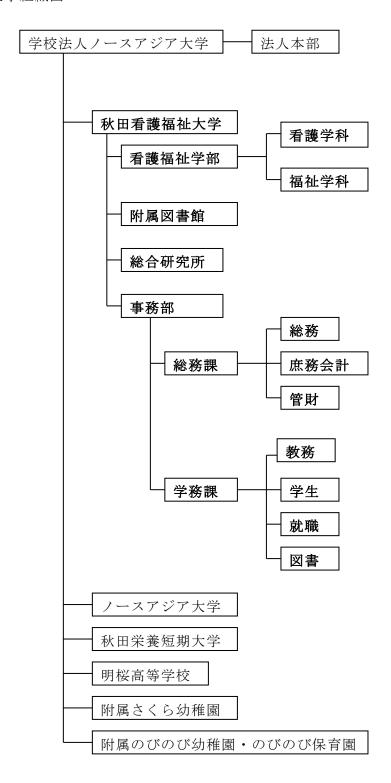
会計処理は、学校法人会計基準および本法人諸規程に従い適正に行われている。予算は 理事会で決定された予算編成基本方針に基づき、法人事務部経理課が各部署とヒアリング を行い、査定した上で事業計画書や収支予算書の作成を行う。その後、評議員会ならびに 理事会の審議を経て事業計画と予算書を決定している。決定された予算は法人事務部経理 課において予算管理を行い、会計処理については部署ごとに確認や事前相談を行っている。 また、さらに会計処理上判断が困難な場合は、公認会計士や日本私立学校振興・共済事業 団に連絡を取り指導を受けている。会計監査では、公認会計士 3 名による監査と監事 2 名 による監査が行われている。

法人と本学の意思疎通は、原則として月1回以上の理事長面談によって行われる。本学からは学長・看護学科学科長・福祉学科学科長等が出席し、法人側からは理事長・常務理事・理事長総室長が出席する。また、必要に応じて各種委員会の委員長が同席する。その他に随時、必要に応じての情報交換が電話、メール、面談等で行われている。

(法人ノースアジア大学寄附行為)

◆学校法人ノースアジア大学組織図 国際センター 大学 · 短大教育指導室 看護福祉大教育指導室 総務課 理事長総室 人事課 高校教育指導室 法人事務部 経理課 経済学科 教育指導室 マネジメント学科 経済学部 法律学科 法学部 観光学科 留学生別科 総合研究センター 総合研究センター事務課 雪国民族館 経済研究所 事 法学研究所 研究所長運営連絡会 教養文化研究所 国際観光研究所 玾 附属図書館 ノースアジア大学 国家試験等センター事務室 事 行政·警察研究室 会 司法研究室 国家試験等センタ 刑事司法研究室 国際ビジネス研究室 評 観光研究室 議 税務会計研究室 員 会 キャリアセンター キャリアセンター事務課 入試広報課 大学事務部 教務学生課 栄養学科 秋田栄養短期大学 栄養研究所 看護学科 福祉学科 看護福祉学部 総合研究所 秋田看護福祉大学 附属図書館 総務課 看護福祉大事務部 学務課 普通科 明桜高等学校 高校事務課 ノースアジア大学附属のびのび幼稚園 ノースアジア大学附属のびのび保育園 幼稚園 · 保育園事務課 ノースアジア大学附属さくら幼稚園

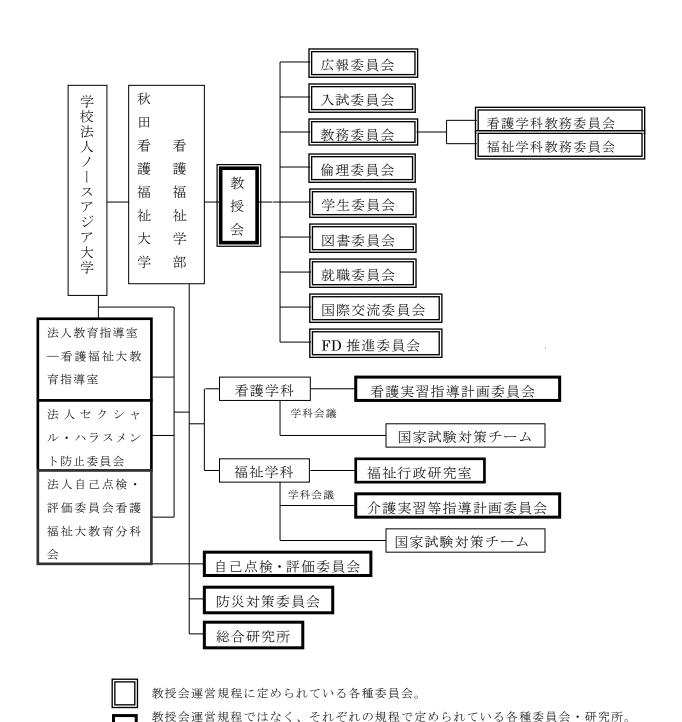
◆秋田看護福祉大学組織図



(2) 運営組織

本学の運営は「秋田看護福祉大学学則」および関連規程により行われている。教授会は 大学の審議機関として月1回定例教授会が開催されるが、学長が必要と判断した場合は臨 時に開催される。本学の教授会および委員会、学科会議等には必ず事務職員が出席し、教 員・職員による協働運営が行われている。本学の運営組織を次の図に示す。

(秋田看護福祉大学学則および関連規程・要綱等)



重要な案件はすべて教授会の審議を経て施行される。

(3) 看護学科

看護学科の入学定員は50人、収容定員は200人である。学科の「教育目標」(学則第6条)に示す看護職者の養成を目的に、卒業と同時に全員が看護師国家試験受験資格の取得が可能である。助産師国家試験受験資格は開学時から選択制であり、実習施設の関係上、5名を選抜している。保健師国家試験資格は平成23年度入学生までは卒業と同時に保健師国家試験受験資格を得ることができるが、平成24年度入学生から実習施設の関係上、選択制になった。学科内には卒業研究係、カリキュラム検討係、学内演習係などの係を置き、学科内の意見が十分に反映され、かつ各種委員会と相互に連携しての教育研究が円滑に行われるように配慮している。学科の教員全員が出席する学科会議は原則として月1回開催される。

臨地実習においては、倫理的配慮に努め、患者等の承諾のもとに同意書を取り交わした 上で実習を行っている。実習施設の看護職者は臨地実習指導者として実習部署に複数配置 され、実習指導教員と連携し、学生の実習を指導している。看護実習指導計画委員会は看 護学科の実習担当教員で構成されており、実習に係わる事項については、看護実習指導担 当者連絡会議を開き、看護実践能力の育成と向上を目指して実習環境を整えている。

◆看護実習指導計画委員会の活動内容

係	内容
	・委員会の企画・運営・学内他部門との交渉・調整
	・学外施設との交渉・調整 ・各係との相談応需
調整・交渉等	・諸提案等のとりまとめ
	・連絡会議の開催
	病院、保健所、施設ごとにそれぞれ年2回行う。
学习到 高	・実習計画 ・教員配置 ・学生配置
実習計画	・実習オリエンテーションの企画 ・看護実習の手引き
技術修得·到達度	・技術水準の検討 ・技術修得および到達度のまとめ
中羽 和 AB.	・実習評価内容と検討と結果の集約 ・同意書
実習記録 実習設備・備品	・インシデントレポート ・有事対応マニュアル
天百 以 佣 • 佣 吅	・実習設備・備品・用品 ・学生ユニフォーム

(4) 福祉学科

福祉学科の入学定員は 40 人、収容定員は 160 人である。学科の「教育目標」に示す福祉職者の養成を目的に(学則第 6 条)、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験受験資格の取得が可能となるカリキュラムを編成している。また、資格取得を希望しない場合は所定の 124 単位の取得により、卒業が可能である。

学科の教員全員が出席する学科会議は原則として月1回開催され、学科内の意見が十分に反映され、かつ各種委員会と相互に連携しての教育研究が円滑に行われるように配慮している。

実習の実施に関しては、福祉学科の専門科目を担当する全教員が委員である「介護実習

等指導計画委員会」が行っている。

◆福祉行政研究室

平成 21 (2009) 年 4 月、福祉系公務員、又はこれに準ずる公務員などを目指す学生を対象に密度の濃い指導ができるよう、福祉行政研究室が設置された。希望者から選抜された学生は単なる受験勉強ではなく、良き公務員になるべく、福祉行政研究室の運営・問題解決に向けての討論・ボランティア活動を主体的に行っている。

また、ノースアジア大学国家試験センター(警察官・公務員試験対策室)と連携しており、福祉学科の全教員が指導に当たる。このことにより、福祉の専門家が多くの自治体の福祉行政を担い、活躍するようになることを期待している。なお、福祉行政研究室については、秋田看護福祉大学福祉学科福祉行政研究室要綱に定められている。

(5) 教授会

秋田看護福祉大学看護福祉学部教授会運営規程により運営されている。教授会は学長が招集し、議長となる。専任の教員が出席し、半数以上の出席で教授会が成立する。

教授会が委任した事項を審議するために置かれている委員会は 9 委員会である。なお、 教務委員会は看護学科・福祉学科の両学科に委員会を置いている。教養科目や総合科目に 関すること、両学科に関連する事項の審議は合同で看護福祉学部教務委員会を開き、審議 している。 (秋田看護福祉大学看護福祉学部教授会運営規程)

- ◆教授会運営規程で定められている委員会 (規程等)
 - · 入試委員会 (秋田看護福祉大学看護福祉学部入試委員会規程)
 - ・教務委員会・看護学科教務委員会・福祉学科教務委員会 (秋田看護福祉大学看護福祉学部教務委員会規程)
 - · 国際交流委員会(秋田看護福祉大学国際交流委員会規程)
 - · 倫理委員会(秋田看護福祉大学倫理委員会規程)
 - · 学生委員会(秋田看護福祉大学学生委員会規程)
 - · 就職委員会(秋田看護福祉大学就職委員会規程)
 - ・ファカルティ・デベロップメント推進委員会(秋田看護福祉大学ファカルティ・デベロップメント推進委員会規程)
 - · 図書委員会(秋田看護福祉大学図書委員会規程)
 - 広報委員会(秋田看護福祉大学広報委員会要綱)
- ◆それぞれの規定で定められている委員会
 - ·看護実習指導計画委員会(秋田看護福祉大学看護実習指導計画委員会規程、秋田看護福祉大学看護実習指導担当者連絡会議要綱)
 - ·介護実習等指導計画委員会(秋田看護福祉大学介護実習等指導計画委員会規程、秋田 看護福祉大学介護実習等指導担当者連絡会議要綱)
 - ·防災対策委員会(秋田看護福祉大学防災規程)
 - 自己点検・評価委員会(秋田看護福祉大学自己点検・評価委員会要綱)

(6) 附属施設

(i) 附属図書館

附属図書館の面積は 704m²である。学生閲覧室 (座席 100 席)、教職員閲覧室 2 室、視聴覚資料室、書庫、事務室、館長室を有する。職員は附属図書館長 (兼任) および職員 3 人 (うち司書 2 人) である。平成 24 年 3 月 31 日現在、蔵書は 37、905 冊 (平成 23 年度増冊 960) である。OPAC (On-Line Public Access Catalogue、所蔵目録検索システム) および文献オンラインデーターベース (医学中央雑誌、メディカルオンライン、CiNi、官報) を導入している。

- ・年間入館者:平成23年度23,785人(システム故障のため、11月・12月を除く)
- ・開館時間:平日 午前8時半~午後7時 土曜日 午前9時~午後5時 定期試験期間中は延長し(平日午後7時半まで開館)、夏季・冬季・春季の学生長期 休業中は短縮する(平日午後5時10分まで。土曜日休館)。平成23年度の開館日数 は268日だった。
- ・利用者:本学の教職員、本学の学生、本学の卒業生、および附属図書館長の許可を得た者(一般利用者)。平成23年度の一般利用者登録数は55人である。
- ・文献複写:ILL料金相殺サービスにより行っている。 平成23年度の学外への文献複写依頼は338件であり、学外からの複写依頼は742

平成 23 年度の学外への文献複写依頼は 338 件であり、学外からの複写依頼は 742 (和雑誌 697、本学研究所報 29、洋雑誌 16) 件だった。

これにより、平成 23 年度の相殺は 41,318 円の収益になっている(ILL サービス運営費・振込み手数料は含まない、受付・依頼料金の差額)。

(秋田看護福祉大学附属図書館規程、秋田看護福祉大学図書館利用内規、秋田看護福祉 大学図書館文献複写内規)

(ii) 総合研究所

保健・医療・福祉領域に関する学術の調査研究を総合的に行うことを目的に設置された。 所長および所員(本学専任教員が兼任)で構成されている。

年1回の「秋田看護福祉大学研究所報」の発行が主な事業である。所報の論文は国立国会図書館雑誌記事検索、医学中央雑誌、メデシカルオンライン、独立行政法人科学技術振興機構(JST、Japan Science and Technology Agency)に登録され、公開されている。

[自己評価および改善計画]

本学の大学運営は円滑に行われている。法人と本学との 100km 以上の距離は情報伝達の迅速さの面でマイナスに働いているが、本学の教職員および法人の努力により、以前よりは改善されている。本学は実習という授業方法が多いため、それに関わる諸々の問題が発生する。したがって、それらの情報の迅速な伝達と問題解決のスピードは、大学運営上の大きな課題である。より一層の迅速化と簡素化が必要である。

委員会活動は円滑に行われている。しかし、教員数が少ないため、教員一人ひとりの負担が重いことから、今後の委員会活動を充実させるためには、工夫が必要である。本学は「学生」を常に中心に位置づけることを教職員の一致した認識とし、大学運営を行っている。

2. 平成 24 年度 秋田看護福祉大学の目標

本学は教育研究に関する平成 24 年度の目標を次のように定めた。この目標の成果は PDCA 方式により毎年検証を重ね、「大学力」向上の推進力とする。

(1) 教員の教育力の向上

本学は建学の精神、大学の使命・目的、教育目標に基づいた「実学」教育により、 地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成している。

ファカルティ・デベロップメント (FD) 推進活動を推進することにより、教員の教育力の向上を図り、学生の「生涯学び続け、主体的に考える力」を育成する。

(2) 学生のボランティア精神の涵養と実践

学生は地域のニーズを踏まえたボランティア活動を体験し、学んだ知識と技術をサービス体験に生かすことで、学修や進路について視野を広げることができ、将来の仕事についての社会的役割を知ることができる。また、問題解決力やリーダーシップを育てる場ともなる。このことから、看護・福祉教育を担う本学の学生にボランテイアの実践を通した教育を行い、その精神の涵養に努める。

(3) 地域貢献事業の充実

自治体等の事業への協力、地域の生涯教育への参画等により、教育研究的視点から 得られた成果によって、地域の発展に貢献する。

[自己評価および改善計画]

少子化による高校生の減少が間近になり、大学にとってかなりの覚悟が必要な時代となっている。本学は看護・福祉専門職の育成という重要な役割を持っており、高齢化が進む秋田県北地域にとっても意義深い存在である。教職員は一致して大学のあり方を考え、改革に取組む必要がある。このことから、より明確な短・中期目標を定めて本学の課題に取り組む必要があると判断し、平成 24 年度の目標を定めた。今後は問題解決に努め、その成果を検証しつつ、「大学力」の向上に取り組む。また、毎年の大学満足度調査や委員会活動の成果の検証等により、大学の研究教育環境の改善を行う。

3. 自己点検評価

(1) 平成 23 年度「大学機関別認証評価」

本学は平成 23 年度大学機関別認証評価を財団法人日本高等教育評価機構から受け、認証された。その過程において(報告書並びに実地調査)「改善を必要とする」とされた事項に対して行った対応は次のとおりである。

◆「改善を必要する」とされた事項への対応

改善を要する点	対 応
①履修登録単位数の上限に	平成 24 年 3 月 2 日教務委員会および平成 24 年 3 月 28
関する規定	日教授会において、「年間履修登録単位数は原則として 60
	単位以内とする」とした。しかし、福祉学科において3つ
	の資格を取得するには 60 単位を超える場合は特例とし、今

	後もカリキュラムの検討を重ねる。
②平成 17 年度 (開設) 以来、	「秋田看護福祉大学自己点検・評価委員会要綱」を定め、
大学独自の自己点検・評価	委員会を立ち上げた。毎年「自己点検・評価報告書」を作
を出していない。	成し、理事長に提出する。その後、ホームページで公表す
	3.
③教養教育の内容について	平成 24 年 3 月 27 日教務委員会および平成 24 年 4 月 19
検討する運営上の責任体	日教授会において次のような取り決めを行った。
制が確立されていない。	・教務委員会が学科ごとにあるため、教養教育に関する検
1011/2 14 17 17 18 18 18	討、共通する事項の検討は合同の「教務委員会」で行う。
	議長は両教務委員会委員長が行う(奇数月は看護学科、
	偶数月は福祉学科)
	・教養科目は福祉学科、総合科目は看護学科が担当し、検
	討を進める。問題提起は双方の教務委員会から担当教務
	委員会に対して行う。
④シラバスの記載(授業計	「シラバス」の様式は統一されたものが各教員に配布さ
画・内容、授業実施方法、	れている。今後は提出された「シラバス」の点検と修正を
成績評価方法)について不	厳密に行う。
統一がみられる。	***・・・・。 内容に関わる部分の修正は担当教員が行い、内容に関わ
	らない部分の修正は事務職員が行う。また、「関連する科目」
	「予習・復習について」の項目も追加する。修正後に印刷・
	配布・公表(本学ホームページ)する。
⑤教員の年齢構成が高齢に	看護教員の場合は 4 年制大学卒業生が少ないこと、福祉
偏っており、引き続き改善	 教員は実務経験のある大学院卒の人材が少ないことから、
に向けた検討と取組みが	教員人材の不足は深刻である。
望まれる。	さらに、附属病院、附属施設がないことから、人事交流
	が出来ない。
	以上のことから、人材不足は当分続くと思われるが、更
	なる改善の努力をする。
⑥再任評価基準を各教員に	法人の方針として明示していない。
明示し、教育研究活動の活	
性化に役立てることが望	
まれる。	
⑦個人研究費の使用率が低	教員への指導の中で、「研究意識の向上」を指導する。
いので、教員の研究に対す	研究費が使いにくい理由として、
る意識の向上や利用しや	・研究費が決まる時期が遅く、すでに学会費等の納入期
すい研究費の仕組みにつ	限が過ぎている場合がある。
いての検討が望まれる。	・学会費の使用制限(回数、金額)がある。
	・交通費、宿泊費は経路や宿泊施設が指定される。
	・購入要求物品の納入が必要時に間に合わないことがあ

	る。
	などが挙げられる。今後、これらの点をふまえ、研究費
	の使用について工夫・改善する。
⑧学部長を前提とした規定	学部長不在の場合について、規定の見直しを行った。
があるが、現状では不在で	
あり、学部長職のあり方に	
ついて、規定の見直しも含	
め検討することが望まれ	
る。	
⑨管理部門と教学部門の連	学長、両学科長は原則として月 1 回の理事長面談を行っ
携については、理事長と学	ている。この他、必要が生じた時は随時理事長面談を行い、
長・学科長などが非公式に	委員長との理事長面談も行う。
週1回程度の面談により	講義や実習のため、定期的な会議日程が組みにくいのが
行われているが、「所属長	現状である。
会議」の活用や正式な会議	
の設置などについての検	
討が望まれる。	
⑩安定的な学校法人の収入	高校生の大学選びの「地元志向」をチャンスと捉え、秋
確保のため、大学の福祉学	田県北の高校を中心に学生確保に努力する。また、高校側
科及びノースアジア大学	には学生の入学後の状況や国家試験・就職などの情報を積
の学生確保に向けての努	極的に提供し、信頼関係を築くことに努める。
力を期待したい。	高校生・保護者や家族・高校側には看護職・福祉職の仕
	事の内容、大学の特徴などの情報をオープンキャンスや大
	学見学、高校訪問、進学相談会、出張授業等を通して積極
	的に提供する。また、県北市町村の公報や地方紙の活用に
	より、保護者等に働きかけることを計画している。
⑪外部資金獲得のため、学内	本学は「教育」への比重が高いので、「研究」の時間が
研究費の充実や研究支援	なかなか取れないのが現状であるが、教育についての研究
体制の検討が望まれる。	や地域貢献に関する研究などを視野に、教員の主体的研究
	活動を推奨し、支援する。また、共同研究などにより、積
	極的に研究指導を行う。
⑫「大学コンソーシアムあき	距離的な問題もあり、秋田市在住教員よりも弘前市在住
た」を基盤に、県内他大学	教員に非常勤講師を依頼することが多い。また、秋田県内
との連携を推進し、大学の	にこだわらす、近隣の大学や医療機関、施設との連携によ
教育活動が更に活発化す	り、教育研究活動の活発化を推進する。
ることを期待したい。	
·	

③地域社会との連携・協力を 全学的な観点から更に推 進するため、受入れ窓口の 一元化や地域連携委員会 などの学内体制の整備が 望まれる。 本学の地域貢献事業は少ないが、密度は濃い。いずれも自治体との連携によるものであり、教員と学生が係わるものである。今後さらに事業が増えた場合はそれなりの学内体制が必要と思われるが、現在のところ、学長直属の体制で行っている。小規模大学であり、教職員が少ないことから、事業の展開は出来ても、事業の開拓が出来ないのが現状である。地域の要望を汲み上げ、教員の専門分野との兼ね合いを考えて進める。総合研究所の充実も必要である。

④セクシャルハラスメント以外のハラスメントに関する規程が整備されていないので、早急に整備することが望まれる。

「教育指導室」、「保健室」、学務課学生係、クラス担任、ゼミ担当教員、学科長、学長が対応している。問題によっては理事長に相談することになるが、現在までにそのような事例はない。深刻な問題が生じた場合は理事長による「検討委員会」の設置が指示される。

⑤防災訓練が学生の休みの 日に設定され、参加人数が 少ないので、計画的でより 効果的な実施が望まれる。 東日本大震災(平成23年3月11日)およびその後の余震により、本学の一斉放送設備が故障したため、全学的な訓練ができなかった。平成24年3月、修理が終わったため、全学的な防災避難訓練を平成24年11月15日に行った。

(2) 自己点検・評価委員会活動状況

自己点検評価委員会は「秋田看護福祉大学自己点検・評価委員会要綱」に基づき、次のような活動をしている。平成 24 年度の活動内容は次のとおりである。

年 月 日	内 容			
平成 24 年 8 月 2 日	「秋田看護福祉大学自己点検・評価委員会要綱」施行			
9月20日	第1回 自己点検・評価委員会			
	・ 委員会構成 ・参考資料の説明			
	・ 活動内容と今後の計画			
	・「平成 24 年度自己点検・評価報告書」の項目			
	・「大学満足度調査」の担当者			
9月28日	在学生への「大学満足度調査」			
9月~10月	各委員からの資料提供と報告書原稿の作成			
10月18日	第2回 自己点検・評価委員会			
	・報告書内容の検討			
11月~1月	各委員による報告書原稿の追加と修正 1月11日最終締切			
平成 25 年	第3回 自己点検・評価委員会			
2月7日	・「平成 24 年度 自己点検・評価報告書」最終確認			
2月13日	・「平成 24 年度 自己点検・評価報告書」(案)を理事長に提			
	出			

(3) 大学満足度調査

目的:自己点検・評価委員会は本学への満足度を調査し、その結果をふまえ、PDCAサイクルに従い、継続的に本学の大学教育改革を行うことで、「大学力」を向上させる。調査の計画:調査の計画は次のようになる。

対 象	実施計画		
立にオール	平成 25 年 4 月「新入生オリエンテーション」においてアンケー		
新入生	ト調査を行う。主に入試関係、本学への期待など。		
在学生	平成 24 年 9 月「後期ガイダンス」においてアンケート調査を行		
	う。本学の教育・学生生活等についての満足度など。		
卒業生	平成 25 年度に行う予定。		
就職先	平成 25 年度に行う予定。		
実習先	平成 25 年度に行う予定。		

◆在学生の大学満足度に関するアンケート

·調査実施日: 平成 24 年 9 月 28 日

・調査対象:全学生 369 名 ・回収数:330 部 (89.4%)

有効回答率 99.0% (未記入部分の多いものを除く)

・調査結果

1. 基本属性

この調査の対象となった学生の基本属性の結果を表1に示す。

表1「在学生の大学満足度に関するアンケート調査」基本属性

公工・出了工の八丁間に及に関するフェノー「開 且 」				
属性 (総数)	人数 (%)			
学科 (327名)	看護学科 211 名 (64.5%)、福祉学科 116 名 (35.5%)			
兴 左(20月 4)	1年生91名(27.8%)、2年生76名(23.2%)			
学年(327名)	3 年生 82 名 (25.1%)、4 年生 78 名 (23.9%)			
性別 (326名) 男性 105名 (32.2%)、女性 221名 (67.8%)				
	推薦入試 109 名 (33.6%)、一般入試 116 名 (35.8%)			
1	センター利用入試 68 名 (21.0%)、			
入学時入試区分(324名)	AO 入試 24 名 (7.4%)、社会人入試 2 名 (0.6%)			
	編入学入試 5 名 (1.5%)			
サークル所属(324名)	文化系サークル 82 名(25.2%)			
(複数回答)	運動系サークル 168 名(51.5%)			
(後数四台)	学生会役員 19 名(5.8%)、無所属 96 名(29.4%)			
住居の状況(324名)	自宅 148名 (45.7%)、アパート 168名 (51.9%)、			
住店の状況(324 石)	その他 8 名(2.5%)			
	徒歩 63 名 (19.4%)、自転車 145 名 (44.8%)			
主な通学方法(324名)	電車 60 名 (18.5%)、自家用車 54 名 (16.7%)			
	その他 2 名 (0.6%)			

2. 学習活動時間

本学学生の1週間の学習時間を表2に示す。

表 2 平均的な学習活動の 1 週間の合計時間 (学年別)

我乙 中均的		二元配置分			置分勘	
				│ │ 福祉学科 [†]	分析	
		土件	有護子科		学年	学科
₩₩₩ HB	1 /: /-	01.01.00.0	20.010.	0.4 5 40 5	子牛	子件
授業時間	1年生	31.2±28.0	29.0±8.5	34.5±43.5		
	2年生	29.6±12.7	34.0±12.8	24.5±10.7	*	
	3年生	36.0 ± 23.5	37.3±7.4	34.1±36.2		
	4年生	23.9±13.7	22.2±11.3	27.0±17.7		
自己学習時間	1年生	6.1 ± 5.4	7.6 ± 4.8	3.9 ± 5.7		
(平常)	2年生	4.4 ± 4.3	5.5 ± 5.0	3.0 ± 2.7	**	**
	3年生	5.8 ± 5.8	6.3±5.9	5.1±5.6		
	4年生	13.9 ± 13.5	16.3±15.0	8.6±7.5		
自己学習時間	1年生	16.7±13.3	18.8±11.3	13.3±15.6		
(試験前)	2年生	17.4 ± 14.4	22.1±16.3	11.1±8.3		**
	3年生	21.1±16.6	24.5±17.5	16.2±14.1		
	4年生	22.2±18.9	27.0±20.0	11.0±9.1		
アルバイト	1年生	4.7 ± 7.6	4.9±8.2	4.2±6.4		
	2年生	8.6 ± 9.6	7.3±8.8	10.7±10.5	*	
	3年生	9.0 ± 10.1	8.1±9.6	10.5±12.7		
	4年生	6.0 ± 13.3	5.8±14.7	6.4±9.6		
サークル活動	1年生	2.4 ± 2.7	2.1±2.4	2.9±3.1		
	2年生	1.5 ± 2.1	1.5±2.1	1.5±2.0		
	3年生	$2.8 {\pm} 7.7$	3.8±9.6	1.2±2.5		
	4年生	1.3 ± 4.4	1.1±5.0	1.8±2.5		
ボランティア	1年生	1.4±5.2	1.2±3.4	1.7±7.3		
活動	2年生	1.4 ± 4.9	1.1±3.4	2.0±6.8		**
	3年生	2.4 ± 6.5	1.4±4.9	4.3±8.5		····
	4年生	1.5 ± 3.8	0.8±2.9	4.0±5.4		

†:時間±SD

p < 0.05, p < 0.01

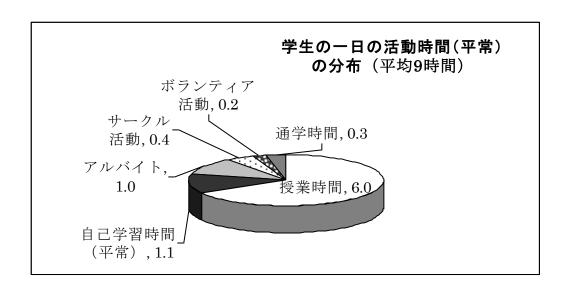
○結果から得られたこと

- ・3年生の授業時間が最も多く(実習を含む)、4年生の授業時間が最も少ない。学科の違いはない。
- ・平常時の自己学習時間は4年生が最も多く、看護学科で特に多い。国家試験の受験勉強のためと思われる。
- ・看護学科の平常時自己学習時間は福祉学科より有意に多い。
- ・看護学科の試験前自己学習時間は福祉学科より有意に多い。
- ・アルバイトに費やす時間は1年生が最も少ない。

・ボランティア活動に費やす時間は看護学科よりも福祉学科の方が有意に多い。

3.1日の活動時間の分布

本学学生の1日の活動時間の平均は9時間である。その内容を示す。

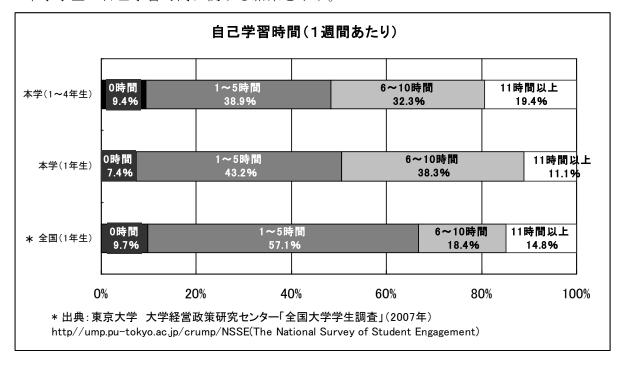


○結果から得られたこと

・本学学生の一日の活動時間のうち、授業時間の占める時間は非常に多い。

4. 自己学習時間

本学学生の自己学習時間に関する結果を示す。

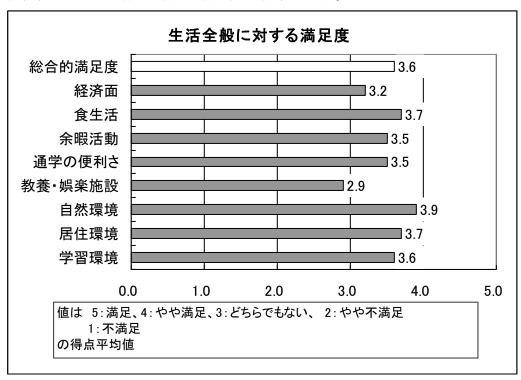


○結果から得られたこと

・学習時間が 0 時間の学生($1\sim4$ 年生)は 9.4%であり、これらの学生に最も重点的に対応する必要がある。

5. 生活全般への満足度

本学学生の生活全般に対する満足度の結果を示す。



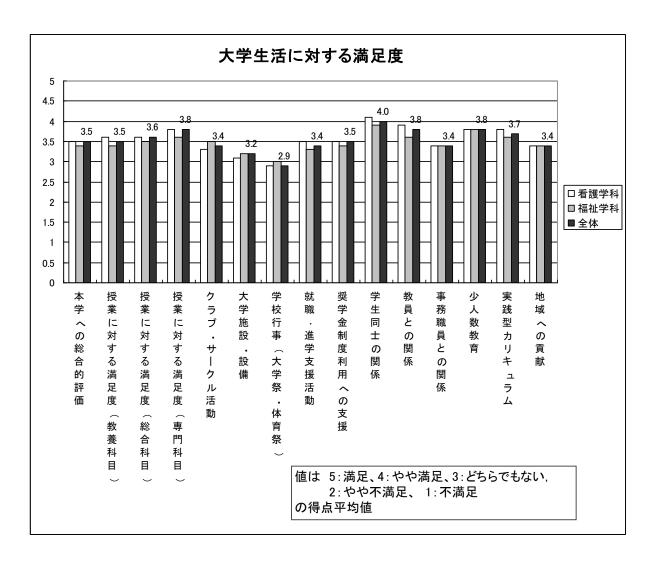
○結果から得られたこと

・自然環境への満足度が最も高い。・教養・娯楽施設への満足度が最も低い。

6. 大学生活に対する満足度

本学での大学生活を「満足」と答えたのは 7.7%、「やや満足」は 44.6%、「どちらでもない」 36.8%、「やや不満足」 9.6%、「不満足」 1.2%だった。このことから、大学生活を「不満足」と感じている学生は 10.8%だった。

学生の本学での大学生活に対する満足度を示す。

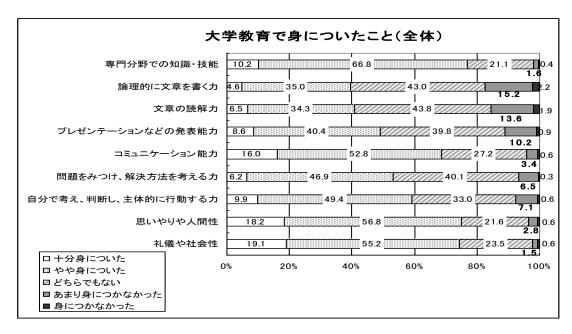


○結果から得られたこと

- ・学生同士の関係に対する満足度、看護学科教員と学生との関係に対する満足度が高い。
- ・学校行事(大学祭、体育祭)への満足度が最も低い。
- ・大学生活への総合的な評価は3.5/5.0である。

7. 大学教育で身についたこと

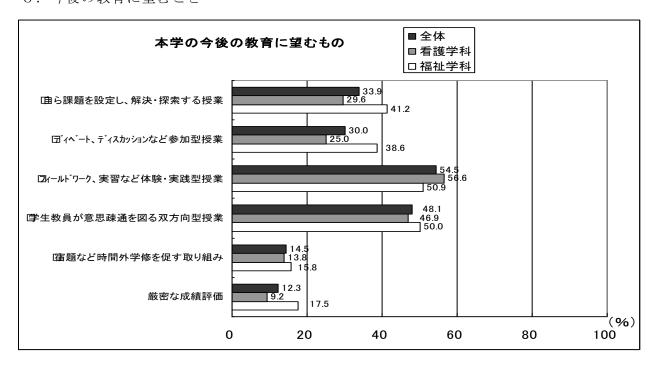
本学の教育方針が学生に認識されているか、効果がどの程度あるかを知るために「大学教育で身に付いたこと」を学生に質問した結果が図5である。



○結果から得られたこと

- ・最も身についたのは「専門分野での知識・技能」であり、次に身についたのは「思いやりや人間性」「コミュニケーション力」である。
- ・身につかなかったのは「論理的に文章を書く力」「文章の読解力」である。

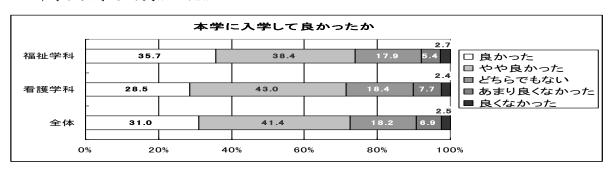
8. 今後の教育に望むこと



○結果から得られたこと

- ・学生が最も多く望む教育方法は「フィールドワーク、実習などの体験・実践型授業」であり、ついで「学生と教員が意思疎通を図る双方向型授業」である。
- ・学生は「宿題など時間外学習を促す」方法や「厳密な成績評価」はあまり望んでいない。
- ・福祉学科は看護学科よりも「自ら課題を設定し、解決・探索する授業」「ディベート・ デスカッションなど参加型授業」を望む学生が多い。

9. 本学に入学して良かったか



○結果から得られたこと

・全体の72.4%の学生が「入学して良かった」「やや良かった」と感じており、「あまり良くなかった」「良くなかった」と感じている学生は9.4%である。

10. 自由記述(抜粋)

【本学の良かった理由】

- ・環境や人間関係に恵まれている。
- ・設備が整っており、少人数教育で皆と深く関われる。
- ・先生や友人に恵まれ、サークル活動も充実し、毎日生き生きと生活させて頂いている。
- ・教員の指導がすごく丁寧で、学修に対して意欲的になれる。
- ・アットホームな雰囲気で学習しやすい環境です。
- ・毎日楽しいです。
- 校舎がきれい。
- ・先生や友人がいい人ばかりで自分は恵まれていると思う。
- ・カリキュラムが国家試験に向けて勉強しやすいものだった。
- ・少人数なので教員が自分を知ってくれるので相談などがしやすかった。
- ・サークル活動によって充実していた。
- ・ゼミ担当の先生がいることで、国家試験対策や就職活動の面で心強い。
- ・あまり大きくない大学なので、授業などでも置いていかれることがなく、一つひとつ のことがしっかり身につく。
- ・人とかかわることの大切さ、難しさを学ぶことができた。
- サポート体制がしっかりしている。

【やや良かった理由】

・就職率や国家試験の合格率が他の大学より良い。

- ・2年次から演習を組むことや1年次に演習を行うことで実際の看護に触れることができた。
- ・人の役に立つ仕事につきたいので、看護職を学んで少しでも将来について考えること ができた。
- ・教員が学生一人ひとりを丁寧にサポートしてくれるので、安心して学生生活が送れる。
- ・大学生活が楽しい。
- 友達がたくさんできた。
- ・実家にも程 よく近い。
- ・少人数教育でしっかりと先生と話をしながら勉強することができる。
- ・学生の人数が多すぎず、学習に集中する環境が自然と整っている。
- ・ 先生が熱心。
- ・専門科目が多く大変だが、やりたいことが出来ている。
- ・さまざまな人の話を聞き、さまざまな人の考え方を知ることができた。
- ・人数が少ないため先生の目が行き届く。
- ・地域に密着した環境で多くのことを学べた。グループ活動が多く様々な人の考え方を 知ることができた。
- ・コミュニケーション力を身につけたことで、これまで以上の人間関係作りをすること ができた。
- ・自ら目指すものが見出せた。素晴らしいと思える人と出会えたことがうれしい。学生 のうちでは見えない、社会から求められる社会人としての基礎力を引き出せるような 取組みがあれば、多くの学生が主体的に考え、行動できるようになれるのではないか と感じる。
- ・学費が比較的安い。
- ・国試対策、就活に熱心で、安心できる。
- ・取得できる資格が多い。

【あまり良くなかった理由】

- ・冬に電車が止まることが多い。
- 教科書などにお金がかかりすぎる。
- 設備がいまいち。
- ・周りに何もない。娯楽施設が少ない。
- ・もっと学科を増やし、たくさんの人との交流を増やすべきであると思う。
- ・少人数のため、問題があるとすぐ話題になり、面倒。
- ・学生の人数が少ない。
- ・学生の経済的負担が大きい。
- ・奨学金制度の説明・相談に不満。
- ・大学祭、体育祭がつまらない。
- ・大学祭での楽しみが少ない。

【良くなかった理由】

- ・周囲に何もない。看護の専門書が欲しくても不便。
- ・勉強以外のサポートが不足。

- ・もっと人数の多い大学で色々なサークル活動をして人間交流を深めたかった。
- ・車がないと出歩けない。
- ・図書館、OA室、就職資料室の設備が不足。

【本学への要望】

- ・2年生の授業に体育を追加して欲しい。身体を動かさないと体調が悪くなる。
- ・学食のメニューを増やして欲しい。夕食も食べられるとうれしい。
- ・学生の視点に立って考えてくれる大学。
- ・寮があるとうれしい。
- ・自販機や売店を充実させて欲しい。
- ・備品が悪い。演習(看護)物品の数を増やし、壊れているものは早めに修理に出して 欲しい。
- ・事務の対応を良くして欲しい。
- ・図書館の開館時間の延長、土日の開放。
- ・行事を充実させたい。大学祭などのイベントはもっと大々的に。
- ・1年生、2年生の国家試験対策。
- ・学内に ATM とコンビニが欲しい。
- ・OA室の利用をもっと自由に開放して欲しい。
- ・実習施設にクーラーをつけて欲しい。
- ・掲示板の整理。連絡はいつも急である。
- ・国家試験対策などでかかる費用は4年生になる前に教えて欲しい。
- ・看護学科と福祉学科の学生が一緒に学べる科目がもっとあっていい。
- ・空調の調節。
- ・テストの答案は返して欲しい。
- ・実習記録は早く返して欲しい。
- ・大学をもっと地域に開放して欲しい。

[自己評価および改善計画]

秋田看護福祉大学自己点検・評価委員会要綱に従い発足した委員会は「自己点検・評価報告書」を作成し、理事長に提出し、ホームページにて公表する。

委員構成は、原則として学長、学科長および、教務委員会・入試委員会・学生委員会・ 就職委員会・ファカルテイ・ディベロップメント(FD)推進委員会・事務部の代表者からな り、必要に応じ、他の教職員を加える。

社会情勢への迅速な対応と社会への期待に答えるために、委員会は毎年の「自己点検・評価」を行い、大学の改善を全学的に継続的に行うことで内部質保証を担保する。そのため、大学満足度調査を行い、その結果を謙虚に受け止め、学科および関連委員会等で改善に取り組む。

今回の在学生を対象とする満足度調査により、普段の生活全般に対する総合的満足度はおよそ 3.6 だった。大学生活への総合的満足度はおよそ 3.5 であり、「やや不満足」「不満」は全体の 10.8%だった。満足度が最も低いのは学校行事(2.9)であった。学校行事は $3\cdot4$ 年生は実習があるため、2 年生が主体であることから、リーダーシップ不足となる。学

生会の在り方も含め早急に対策が必要でる。全学生が参加し、地域の方々との交流も盛り上がりのあるものにしたい。設備・施設への評価も低かった(3.2)が、記述部分の意見から、図書館開館時間、売店などに対するものと思われる。図書館は授業のない長期休業中は開館時間を事務職員の勤務時間に合わせているため、実習のある学年の学生は実習終了後における大学での学習(実習記録のまとめ、予習・復習など)場所に不便を感じている。予算要求に反映させ、早急に改善したい。売店(専門書を含む)は、営業上の理由で撤退している。大学の向かいにコンビニがある。大館市には娯楽施設が少ないため、不満を感じる学生がいると同時に、すばらしい自然環境の中で落ち着いて勉強に専念できると考える学生もいる。大館市には専門図書の書店がないため、購入は不便である。秋田市からの出張販売があり、図書館には参考書が豊富であることから、通信販売を含め、教員と相談し、工夫して購入して欲しい。

本学への入学に不満を感じているのは1割程度であるが、不満の理由を本学の改善に活かすことで、大学生活を有意義で楽しいものにしなければならないと考えている。また、本学の特性である「学生と教員との良い関係」は浸透しており、「思いやりや人間性」も身に付いている。学生も「身についていない」と認識している「文章を論理的に書く力」「文章読解力」については、平成24年度入学生から「文章表現」(教養科目)を開講した。

学生の学習時間は全国的に見て少ない方ではない。学生は授業時間と合わせると非常に多くの時間を学習に当てている。しかし、1週間の学習時間が5時間未満の学生もおり、これらの学生への対策が必要である。これらを真摯に受け止め、今後の大学改善に活かしたい。

4. 広報活動

本学の広報活動は学校法人ノースアジア大学広報編集委員会の基本方針と秋田看護福祉大学広報委員会要綱に基づき、広報委員会が行っている。

広報委員会は学校教育法施行規則第 172 条の 2 に規定する情報と共に、本学の教育研究活動に関する情報をホームページなどのメディアを通し学内外へ発信している。

平成 24(2012)年度、本学ホームページの"ニュース&トピックス!"に写真と共に掲載した記事は次の通りである。

掲載日	タイトル
4月5日	秋田看護福祉大学卒業証書授与式を行いました
4月9日	看護学科、福祉学科の学生が鹿角市集落支援事業でボランティア
5月21日	秋田看護福祉大学主催「合同就職面談会」を開催
6月12日	高大連携授業 (第1回) を開催しました
6月19日	テーブル&チェアーが設置されました
6月19日	体育祭を開催しました
6月19日	看護学科 4 年生が地域看護学実習報告会を開催
7月3日	鹿角市地域力再生支援事業ボランティア活動報告(平成24年度第1号)
7月18日	福祉学科 4 年生がソーシャルワーク実習を終えました
7月18日	第1回オープンキャンパスを開催

鹿角市地域力再生支援事業ボランティア活動報告(平成24年度第2号)			
秋田県知事と意見交換			
在宅療養者と家族への看護を考える「在宅ケア実習」開始			
「第2回・第3回オープンキャンパス」を開催しました			
看護学科4年生の「総合実習」が終わりました			
保護者懇談会開催			
福祉学科4年生「精神保健福祉援助実習報告会」を開催			
大学祭「逢星祭」を開催			
看護学科1年生「早期体験実習」、2年生「基礎看護学実習」が終了しました			
「伝説の里かづの体感泊覧会でんぱく」に参加しました			
「がん検診推進タウンミーティング」で看護学科 4 年生が発表			
マナー講座を開催			
労働法制について学びました			
「助産学実習」で、50人の赤ちゃんの誕生のお世話をしました			
履歴書の書き方を学びました			
地域特産の餅で料理を作りました			
面接対策講座(1)を開催			
看護学科 3 年生が「看護実習地域診断報告会」を実施			
看護学科4年「国家試験対策」いよいよ大詰め			
秋田労災病院説明会を開催			
就職ガイダンス(面接講座)を開催			
卒業確定者を発表しました			
「学長と学生代表との懇談会」「リーダースミティング」を開催			
ソーシャルワーク実習指導担当者連絡会議を開催			
平成24年度 卒業証書授与式を行いました			
「第5回オープンキャンパス」を開催しました			

(学校法人ノースアジア大学広報編集委員会規程、秋田看護福祉大学広報委員会要綱、本学ホームページ)

[自己評価および改善計画]

本学の情報を全国に発信し、社会から理解を得ることは非常に重要である。本学の広報活動は法人理事長総室広報との連携のもとに行っており、法人としての広報活動となっている。本学のホームページは受験生および保護者にとっても重要な情報源となっていることが、新入生オリエンテーションの際に行われたアンケートの結果からも明らかになっている。

本学の行事などの情報はなるべく迅速にホームページに掲載するよう、努力している。 今後は毎年のホームページの更新を迅速に行い、内容の整理整頓に留意し、より見やすい もの、分かりやすいものにする。そのためにも、ホームページの内容、あり方について、 教員のみならず、職員や学生、そしてそれを見る多くの方々の意見や要望を取り入れたい。

第4章 教育

1. 入学試験

本学は次に示すアドミッション・ポリシーに基づき、入学試験を行っている。

(1) アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

<看護福祉学部>

秋田看護福祉大学看護福祉学部は、次のような人の入学を求めます。

- ・人権や生命への尊厳の気持ちを持った人
- ・他者に対する思いやりの気持ちを持った人
- ・自らの責任において、主体的に学習しようという意欲を持った人
- ・周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調性を持った人

<看護学科>

- ・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の回復と維持に貢献したいという 意欲を持った人
- ・常に向上心を持ち、時代の変化に対応できる柔軟な思考力を持った人
- ・地域社会や国際社会に貢献する気持ちを持った人
- ・他の人と協力して健康・医療サービスを提供したいと思っている人

<福祉学科>

- ・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人
- ・人間の福祉に幅広い関心を持っている人
- ・福祉を必要とする人々の生活の自立を心身両面から援助したいと思っている人
- ・他の人と協力して福祉サービスを提供したいと思っている人

(大学入試要項、大学案内、秋田看護福祉大学ホームページ)

(2)入学選抜方法(平成25年度)

試験区分		入試科目		
		看護学科	福祉学科	
一般公募		₩ Δ HB B I → Δ → フ ☆		
推薦入試	学園内高校	- 総合問題、小論文、面接 		
		必須:国語、英語	必須:国語、英語	
一般入試		選択:数学 I · 数学 A、	選択:数学 I · 数学 A、	
	前期	生物Ⅰ、化学Ⅰの中	生物Ⅰ、化学Ⅰの日	
	後期	から1科目を選択	本史 B、世界史 B、	
			政治・経済中から 1	
			科目を選択	
		必須:国語(近代以降	必須:国語(近代以降	
大学入試セ		の文章)、英語(リス	の文章)、英語(リス	
ンター試験 利用入試	以加	ニング含まず)	ニング含まず)	
	前期	選択:数学 I、数学 I・	選択:数学 I、数学 I・	
	後期	数学A、理科総合A、	数学A、理科総合A、	

		理科総合B、生物I、	理科総合B、生物I、	
		化学Ⅰ、物理Ⅰの中	化学I、物理I、日	
		から1科目を選択	本史 B、世界史 B、	
			地理 B、倫理・政治・	
			経済の中から 1 科目	
			を選択	
社会人入試	一般前期日程と同日	筆記試験・小論文・面接		
	福祉学科のみ(自己推	薦方式)		
	ボランティア活動等の社会活動、課外活動、生徒会活動等の活動歴や			
AO 入学	特技、志望理由等を記載したエントリーシートを提出する。書類審査通			
試験	過者に対して課題レポートを送付し、レポート提出者に対して個別面接			
	を行う。課題レポート・個別面接・出身高等学校調査書による総合判定			
	にて選抜する。			

福祉学科編入学試験

福祉学科編入試 区分		選抜方法	
推薦編入試	一般公募	短期大学(介護福祉士養成施設等)または専修学校(介護福祉士養成施設等で、修業年限が2年以上、かつ1、700時間以上の総授業時間数の課程)の卒業見込み者で、学長または校長が推薦できる者。これらの条件を満たす者に対し、個別面接及び提出書類を総合判定して選抜	
一般	編入A(前期)	小論文、個別面接及び提出書類を総合判定して選抜	
編入試	編入B (後期)	小論文、個別面接及び提出書類を総合判定して選抜	

◆学生募集人数 (平成 25 年度)

試験区分	募集人員	看護学科	福祉学科
推薦入試	一般公募	15	13
推 局 八 科	学園内高校	2	3
4.5 t .n.à	前期	18	8
一般入試	後期	4	3
センター	前期	8	5
利用入試	後期	3	3
社会人入試		若干名	若干名
AO 入試			5
募集定員		50	40
編入学試験			若干名

(3) 入試区分別 求める学生像

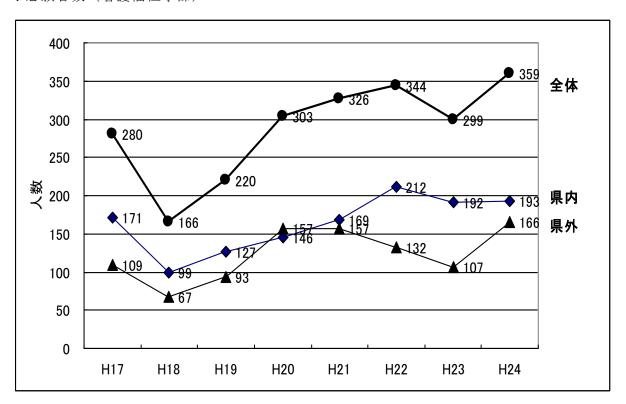
		求める学生像			
【学部共通】すべての入	、学試験で	・人権や生命への尊厳の気持ちを持った人			
共通して最も重視する能	台力	・他者に対する思いやりの気持ちを持った人			
		・自らの責任において、主体的に学習しようという意			
		欲を持った人			
		・周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調			
		性を持った人			
【看護学科】の入学試験	で受験者	・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の			
に期待すること		回復と維持に貢献したいという意欲を持った人			
		・常に向上心を持ち、時代の変化に対応できる柔軟な			
		思考力を持った人			
		・地域社会や国際社会に貢献する気持ちを持った人			
		・他の人と協力して健康・医療サービスを提供したい			
		と思っている人			
【福祉学科】の入学試験	で受験者	・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人			
に期待すること		・人間の福祉に幅広い関心を持っている人			
		・福祉を必要とする人々の生活の自立を心身両面から			
		援助したいと思っている人			
		・他の人と協力して福祉サービスを提供したいと思っ			
		ている人			
		・専門教育を受けようとする準備性が整い、専門教育			
		に入っていくために必要な教科学力を有している人			
		【教科学力】			
	看護	・教科全般にかかわる基礎学力を有している人			
一般学力入試	学科	【基礎学力】			
(前期・後期)		・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の			
		回復と維持に貢献したいという意欲を持った人			
大学入試センター試験		【ホスピタリティ・マインド】			
利用入試(前期・後期)		・専門教育を受けようとする準備性が整い、専門教育			
		に入っていくために必要な教科学力を有している人			
		【教科学力】			
	福祉	・教科全般にかかわる基礎学力を有している人			
	学科	【基礎学力】			
		・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人			
		【ホスピタリティ・マインド】			

	I	
		・秋田看護福祉大学看護学科で学ぶ強い意欲を持って
		いる人
		・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の
		回復と維持に貢献したいという明確な目的意識を持
推薦入試	看護	っている人
(一般公募・学園内)	学科	・自らの責任において、主体的に学習しようという意
【専願】		欲を持った人
		・周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調
		性を持った人
		・秋田看護福祉大学福祉学科で学ぶ強い意欲を持って
		いる人
		・介護福祉士、社会福祉士または精神保健福祉士として、福祉・本されたようないないの意思的採出
	사급 수.1	て、福祉ニーズを抱えた人たちのための専門的援助
	福祉	者となりたいという目的意識を持っている人
	学科	・自らの責任において、主体的に学習しようという意
		欲を持った人
		・周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調
		性を持った人
		・秋田看護福祉大学看護学科で学ぶ強い意欲を持って
		いる人
		・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の
		回復と維持に貢献したいという明確な目的意識を持
		っている人
	エニサ	・自らの責任において、主体的に学習しようという意
	看護	欲を持った人
	学科	・常に向上心を持ち、時代の変化に対応できる柔軟な
		思考力を持った人
		・時流に迎合せず、広い視野で真実を見抜く力を持っ
社会人入試		ている人
		・他の人と協力して健康・医療サービスを提供したい
		と思っている人
		・秋田看護福祉大学福祉学科で学ぶ強い意欲を持って
		・松田有護価性人子価性子科で子が短い息似を持つでいる人
		・自らの責任において、主体的に学習しようという意
	福祉	欲を持った人
	学科	・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人
		・時流に迎合せず、広い視野で真実を見抜く力を持っ
		ている人
		・福祉を必要とする人々の生活の自立を心身両面から

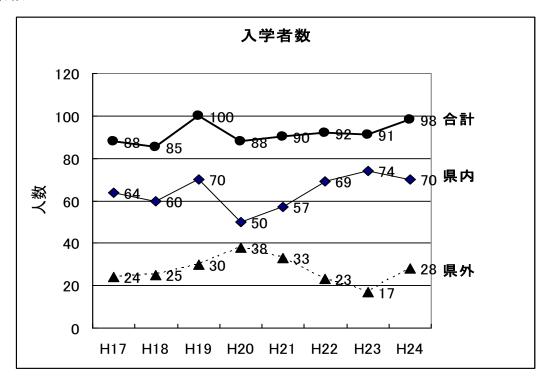
	援助したいと思っている人 ・ 他の人と協力して福祉サービスを提供したいと思っている人
福祉学科AO入試	 ・福祉関係の仕事や研究に一定の理解を示せる人 ・福祉学科で勉学することを強く希望する人 ・福祉学科にかかわりある資格を有する人 (例えば、ホームヘルパー資格等) ・特定の科目や分野に秀でた能力を持つ人 ・ボランティア活動ですぐれた活躍をした人 ・高等学校で福祉に関する課程を修めた人 ・今現在、福祉関連の施設や団体で働いている人
福祉学科編入学入試	・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人・福祉を必要とする人々の生活の自立を心身両面から 援助したいと思っている人・他の人と協力して福祉サービスを提供したいと思っている人

(4) 志願者・入学者の状況

◆志願者数 (看護福祉学部)



◆入学者数



◆編入学者数

	福祉学科
平成 23 年度	2 年生 1 人
平成 23 年度	3 年生 2 人
平成 24 年度	3 年生 2 人
	5人
合 計	2 年生 1 人
	3年生 4人

◆平成24年度入試倍率

<看護学科>

7	【試区分	募集 人員	志願者	受験者 a	合格者 b	倍率 (a/b)	入学者
推薦	一般公募	17	18	18	16	1.13	16
	学園内	2	0	0	0	0.00	0
一般前	前期	16	144	139	5 3	2.62	32
一般後	 り 期	4	19	18	4	4.50	2
センタ	一前期	8	73	73	44	1.66	12
センタ	7一後期	3	5	4	2	2.00	2
社会人		若干名	1	1	0	0.00	0
	合 計	50	260	253	119	2.13	64

<福祉学科>

	入試区分	募集 人員	志願者	受験者 a	合格者 b	倍率 (a/b)	入学者
推	一般公募	13	10	10	10	1.00	10
薦	学園内	3	2	2	2	1.00	2
, fiJ	· 	8	10	10	10	1.00	6
— 加	设前期	(第2志望)	39	39	23	1.70	2
, fiJ	1.79x 11 11	3	2	2	2	1.00	1
— 加	设後期	(第2志望)	4	4	3	1.33	0
セン	ター前期	5	23	23	18	1.28	5
セン	ター後期	3	2	1	1	1.00	1
社会		若干名	0	0	0	0.00	0
AO		5	7	7	7	1.00	7
	合 計	40	99	98	76	1.29	34
	推薦	若干名	2	2	2	1.00	1
編入	一般 A	若干名	1	1	1	1.00	1
	一般B	若干名	0	0	0	0.00	0
	合計		3	3	3	1.00	2

※第2志望は、看護学科志願の際に福祉学科志願を第2志望として登録した者

◆平成 24 年度志願者・入学者 (地区別)

	看護福	祉学部	看護学科		福祉	学科
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
秋田県	193	70	127	39	66	31
秋山泉	(53.7%)	(71.5%)	(48.8%)	(60.9%)	(66.7%)	(91.2 %)
青森県	30	7	26	7	4	0
月林片	(8.4%)	(7.1%)	(10.0%)	(10.9%)	(4.0%)	(0.0%)
岩手県	46	7	32	5	14	2
石于尔	(12.8%)	(7.1%)	(12.3%)	(7.8%)	(14.2%)	(5.9%)
宮城県	44	6	35	6	9	0
呂城乐	(12.3%)	(6.1%)	(13.5%)	(9.4%)	(9.1%)	(0.0%)
山形県	18	4	16	4	2	0
田沙泉	(5.0%)	(4.1%)	(6.2%)	(6.3%)	(2.0%)	(0.0%)
その他	28	4	24	3	4	1
· C V/IE	(7.8%)	(4.1%)	(9.2%)	(4.7%)	(4.0%)	(2.9%)
合計	359	98	260	64	99	34
一日日	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

		看護福祉学部		看護学科		福祉学科	
			入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
	県北	98	44	63	26	35	18
	光 1	(50.8%)	(62.9%)	(49.6%)	(66.7%)	(53.0%)	(58.1%)
	県中央	52	12	39	8	13	4
秋田県	泉中天	(26.9%)	(17.1%)	(30.7%)	(20.5%)	(19.7%)	(12.9%)
秋田泉	県南	43	14	25	5	18	9
	州	(22.3%)	(20.0%)	(19.7%)	(12.8%)	(27.3%)	(29.0%)
	合計	193	70	127	39	66	31
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

◆平成 24 年度在籍学生数及び収容定員超過率

(平成24年5月1日現在)

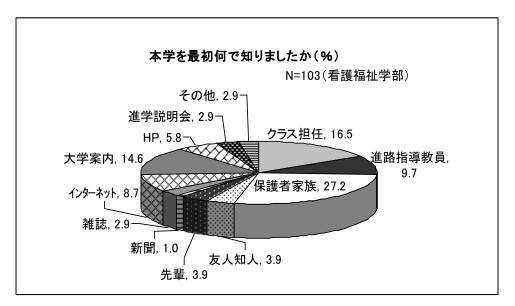
		定員超過				
						率(在籍学
	1年次	2 年次	3年次	4 年次	総数	生総数/
						収容定員)
看護学科	64	58	57	59	238	1.19
(定員 50)	04	04 50	97	อฮ	430	1.19
福祉学科	34	35	9.4	31	134	0.84
(定員 40)	υ4	ა <u>ე</u>	34	91	104	0.84
合計	98	93	91	90	372	1.03

[※]収容定員は看護学科 200人、福祉学科 160人、合計 360人である。

(5) 平成24年度「新入生研修会アンケート」結果

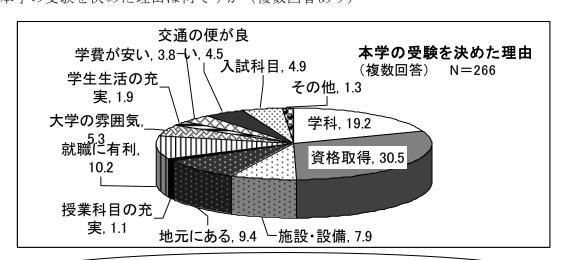
新入生に対し、「新入生オリエンテーション」で行ったアンケートの結果は次のとおりである。

- · 日時: 平成 24 年 4 月 4 日 (水)
- ・対象:看護学科64人、福祉学科34人
- ・結果
 - ■本学を最初何で知りましたか(複数回答あり)



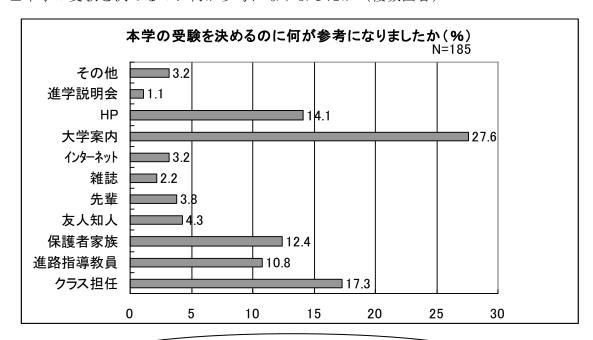
本学を最初に知ったのは、「保護者・家族」からが最も多い。

■本学の受験を決めた理由は何ですか(複数回答あり)



本学を決めた理由で最も多いのは「資格取得」である。

■本学の受験を決めるのに何が参考になりましたか (複数回答)



「大学案内」が最も参考になった。

■本学以外に何校併願しましたか

	1校	2 校	3 校	4 校	5 校	なし	回答数
看護	8	14	12	5	2	14	==
学科	(14.5%)	(25.5%)	(21.8%)	(9.1%)	(3.6%)	(25.5%)	55
福祉	4	3	4	0	0	9	90
学科	(20.0%)	(15.0%)	(20.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(45.0%)	20
△乵	12	17	16	5	2	23	75
合計	(16.0%)	(22.7%)	(21.3%)	(6.7%)	(2.7%)	(30.7%)	75

■本学が第一志望ですか

	はい	いいえ	回答数
看護学科	25 (42.4%)	34 (57.6%)	59
福祉学科	23 (67.6%)	11 (32.4%)	34
合計	48 (51.6%)	45 (48.4%)	93

入学者の約半数 は本学が第一志 望だった。

[自己評価および改善計画]

入学者の選抜については、学部・学科の教育目的・目標をふまえて多彩な入学試験 方式を導入している。このような志願者募集の多様性や入試広報活動の成果により、 平成 24 年度は志願者の減少を回避することができた。

両学科で実施される推薦入試や福祉学科でのAO入学試験、編入学試験においては、 調査書の内容・小論文・面接等からの志願者の能力や適性、学習に対する意欲、目的 意識等を総合的に判定して、本学で学び地域社会に貢献できる素質を有する人材発掘 に努めている。

福祉学科は収容人数を満たしていない。福祉学科はAO入学試験と推薦入試による入学が主であったが、センター試験利用や一般入学試験での第2志望を取り入れることにより、入学者の減少を食い止めることができた。今後は定員を満たす入学者となるよう、より一層の入学者増加に向けての入試広報活動に取り組む。

編入学は入学後の単位取得による国家試験受験資格を得ることを考え、介護福祉士養成校卒を中心に募集活動を行う。

看護学科については、入学後の休学や退学にならないよう、「あこがれ」だけではなく、 本人の健康状態や適性も大切である。

高校生の福祉職への理解を得るため、オープンキャンパスや高大連携授業、高校への出 張授業は非常に有効であり、今後も参加者の増加に努める。また、「新入生アンケート」の 結果から、保護者への入試広報活動が大切であることから、ホームページや大学案内の内 容や配布についても工夫すると共に、オープンキャンパスへの保護者の参加も多くする。

2. 「高校~大学」移行教育

(1) 講義等

(i) 高大連携授業

「大学コンソーシアムあきた」の事業として、高大連携授業が行われている。この事業では本学を会場に、看護学科および福祉学科の教員による授業が行われる。高校生は大学の授業を体験し、学問への興味喚起と進路について考える機会を得る。

(第6章 地域貢献4.「大学コンソーシアムあきた」の事業 を参照)

◆平成24年度 高大連携授業

月 日(曜日)	テーマ	講師
福祉につい	って -4日で学ぶ福祉の仕事-	(福祉学科)
6月2日(土)	少子高齢化社会と社会福祉の役割	赤羽卓朗 教授
6月16日(土)	障害のある人々の生活と支援	柴田 博 教授
6月23日(土)	福祉の仕事ーその役割と意味	村岡則子 准教授
6月30日(土)	高齢化における介護について	村田道彦 准教授
看護の魅力とす	可能性 -看護学のこれからを探る-	(看護学科)
7月7日(土)	癒しがもたらす看護の力	今野 修 助教
7月14日(土)	安全な医療	田口牧子 教授
7月21日(土)	リラクセーション技法を学ぼう	水木暢子 教授
7月28日(土)	赤ちゃんと楽しい沐浴	村上京子 教授

(ii) 出張講義・進路ガイダンスなど (平成 24 年度)

月日	場所	テーマ等	講師
5月22日(火)	大館鳳鳴高校	大館鳳鳴高校 SSH スペシャル講義 「癒しと看護」	今野 修 助教
7月25日(水)	社会福祉法人いずみ会 ウエルビューいずみ	平成 24 年度 高校生福祉の進路ガイ	駒ヶ嶺 裕子 助教
7月27日(金)	秋田県北部老人福祉総合エリア (大館市)	ダンス 主催:社会福祉法人秋	工藤 久 准教授
7月31日(火)	秋田県南部老人福祉総合エリア(横手市)	田県社会福祉協議会	赤羽卓朗 教授

(iii) オープンキャンパス模擬授業 (平成 24 年度)

	月日	テーマ	講師
		元気のない赤ちゃんを	看護学科
第1 同		助けよう!	大瀬富士子 准教授
第1回 オープンキャンパス	7月7日(土)	-新生児蘇生術-	
		心理テストを体験しよ	福祉学科
		う	駒ヶ嶺裕子 助教
		命の源に触れてみよう	看護学科
佐の日 佐の日		-バイタルサイン測定	今野 修 助教
第2回・第3回 オープンキャンパス	8月4日(土) 8月7日(土)	を行ってみよう-	
		温かい心と冷めた頭	福祉学科
			丸山龍太 助教

(2)入学前教育

- ◆平成24年度入学生「入学前プログラム」
 - ・目的:「入学前プログラム」は、入学予定者が高校までの学習の成果を踏まえて、大学入学後の学習内容である医療や看護・福祉の専門的事項に親和性を持つこと、大学の学習の基本となる自分で調べる主体的な学習の準備段階を形成することを目的に行っている。また、課題内容を理解し、自分の意見をまとめて表現することで大学における学習に繋げる。
 - ・対象者:AO 入学試験・推薦入学試験による入学予定者
 - · 担当:教務委員会
 - ・平成23年12月下旬、推薦入学予定者に高校のクラス担任を通して課題を郵送する。①学科共通の課題:新聞記事による事前学習
 - ・新聞記事の中の専門用語を調べ、感想文を提出する。
 - ②看護学科:理系(生物1、化学1)の課題に対するレポート提出。
 - ③福祉学科:社会系科目(政治、経済、社会)の課題に対するレポート提出。

- ・平成24年2月下旬、課題が返送される。本学教務委員会教員による添削を行う。
- ・平成 24 年 3 月上旬、添削した課題と共にアンケート用紙を入学予定者に郵送する。 高校のクラス担任にアンケートを実施する。

◆平成24年度「入学前プログラム アンケート」結果

<評価尺度>

5:強くそう思う **4**:そう思う **3**:どちらともいえない

2:あまり思わない 1:全く思わない

		高校担任教師
質問	(N=33 回収率 94.9%)	(N=22 回収率 91.7%)
全国の東並学羽はなわたに	(11 - 33 固坎平 34.3 /0)	(11-22 固収平 31.1/0)
今回の事前学習はあなたに	4.67(前年度 4.47)	5.59(前年度 4.54)
とって有益でしたか		
この事前学習は今後の大学	(* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	4 5 0 (25 5 5 4 0 5)
の授業を理解する上で効果	4.55(前年度 4.25)	4.50(前年度 4.25)
的と思いますか		
今回の事前学習において自		
分で積極的に取り組んだと	4.48(前年度 4.22)	4.41(前年度 4.29)
思いますか		
本学教員による添削指導は	4.61(前年度 4.63)	4.27(前年度 4.08)
よく理解できましたか	1.01 (1.00)	1.21 (1.97 / 1.00)
	レポートの書き方について	このような課題に取り組む
	少し教えて欲しかったです。	ことにより、生徒の興味・関
		心は更に深まると思います。
	もっと余裕を持ってやるべ	入学までの期間が長いので、
	きだったと思いました。学校	複数回の課題があっても良
	で学んだ学習内容をより深	い。または、添削後の課題を
	く調べたことで改めて知っ	再提出させるともっと深く
	たことも多く、自分にとって	取り組むと思う。生徒には大
-240	とても力になったと感じま	学入学前に勉強しなければ
感想・意見	した。今後も自分で調べ、理	という気持ちが芽生えてい
	解力を高められるようにし	た。
	たい。	
	レポートで自分の足りなか	生徒には学習全般、さらに社
	ったところや良かったとこ	会に対する興味・関心が強ま
	 ろを添削で知ることができ	ったように感じる。生徒を教
	たので、これからに生かして	育するという熱意が伝わり
	いきたい。	ました。
	-	入学後の学習内容について、
		, , , DC , , H, , H , = - , , ()

	生徒なりに深く考え、専門的
	な学習を行う準備が出来た
	と感じています。

[自己評価および改善計画]

高校と大学の空白時間を埋めることの効果については、「入学前プログラム アンケート」からも明らかである。また、このプログラムは入学後に学ぶ内容に沿っていることから、入学後の学修に有効であると考え、実施している。しかし、「入学前プログラム」で非常に良いレポートを提出した学生でも、入学後の学修意欲に繋がらない場合がある。そのため、「高校~大学」移行教育が入学後の学修意欲に反映されているかは、さらに検証と対策が必要である。

高大連携授業は有効な「高校~大学」移行教育である。参加者増加のための対策と努力が必要である。

3. 教育課程

本学は、「建学の精神」および「大学の目的および使命」(学則第1章第1条)、「教育目標」(学則第2章第6条第2項)に基づき、下記に示すカリキュラム・ポリシーをもって教育課程を編成している。

(1) 教育目標

大学の建学の精神である「真理・調和・実学」を支柱として、学部の人材育成に関する目的と教育目標を「幅広い教養教育との密接な関連のもとに保健・医療・福祉領域における奥深い専門教育を教授し、豊かな人間性と知性、高度な専門知識と技術を身につけて社会に貢献できる人材を養成する。」と学則第1条に定めている。

また、看護学と社会福祉学の専門性と独自性を尊重しつつ、学部および学科ごとの教育目標を定めている。

看護福祉学部:幅広い教養教育との密接な関連のもとに、保健・医療・福祉領域における奥深い専門教育を教授し、豊かな人間性と知性、高度な専門知識と技術を身につけて社会に貢献できる人材を養成することを教育理念・目標とする。

看護学科:生命に対する深い尊厳の心を持ち、対象者がどのような援助を求めているかを正確に把握し、常に向上心を持って適切な看護サービスを提供できる看護職者を養成する。

福祉学科:社会福祉学という「知」と「実践」を統合した学問を機軸に、学究の営 みに邁進し、共生社会の実現に向けて創造的な提言を行い、自ら行動で きる福祉マインドを持った人材を養成する。

(学則第2章第6条第2項)

(2) カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

秋田看護福祉大学は、一人ひとりの学生を大切にし、「豊かな人間性と知性」を涵養し、「確かな知識と実践力」と「たゆまぬ向上心と創造する力」を育む教育を行い、卒業後も

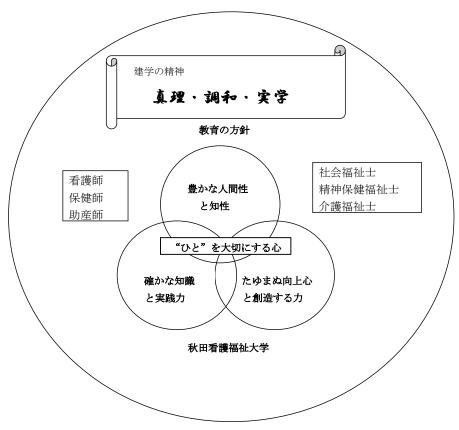
人を大切にする"こころ"(調和の精神)を持って仕事に励み、人生を生きていく社会人になることを願い次のような人材を育成する。

- 1)豊かな人間性と知性を持ち、思いやりと人を大切にする心を持つ人
 - ・幅広い教養を身につけ、人権および生命の尊厳を含む人間に対する理解を深め、豊かな人間性を涵養し、また、職業遂行の背景となる社会情勢を認識し、職業人としての 倫理観を養うため、両学科で共通の「教養科目」「総合科目」を学ぶ。
 - ・「教養科目」「総合科目」には、他の職業スタッフとのパートナーシップを育成するための科目、専門職として欠かせないコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成するための科目を配置する。
- 2) 確かな知識と実践力を持って社会に貢献する人
 - ・専門職者としての様々な状況で活用するための基礎的知識を学ぶ「専門基礎科目」を 配置する。また、専門知識および技術を修得するための「専門科目」(講義・演習・ 実習)を1年次から、系統的に学べるように配置する。
 - ・看護学科では看護師・保健師・助産師、福祉学科では社会福祉士・精神保健福祉士・ 介護福祉士の国家試験を受験する資格を得られるカリキュラムとする。
- 3) 自分で考え、判断し、主体的に行動し、たゆまぬ向上心と創造する力を持った人
 - ・「講義」「演習」「実習」「ゼミナール」「卒業研究」などの多彩な授業方法を通し、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の更なる向上を目指すと共に、「向上心」「論理的科学的思考」「問題解決能力」「創造力」を育む。

(平成24年11月6日制定)

◆教育概念図

以上のような教育方針に基づく本学の教育概念図は、次のように図示される。



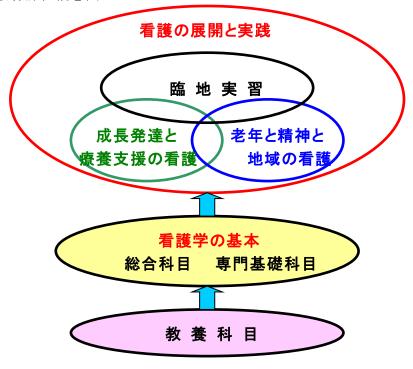
(3) カリキュラム

両学科のカリキュラムは下記に示す概念図のイメージで体系的に編成している。

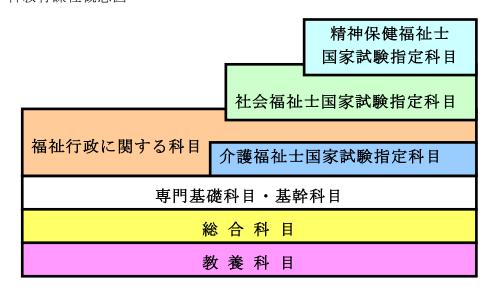
看護学科は平成 24 年度入学生から保健師国家試験受験資格および助産師国家試験受験 資格を得るカリキュラムは選択制である。それ以前の入学生では、保健師国家試験受験資格は看護師国家試験受験資格と同様に卒業時に得ることができる。

福祉学科では、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士、いずれも選択制である。介護福祉士については、23年度以前の入学生について、介護福祉士の指定科目を修めた学生のみ卒業と同時に介護福祉士の資格を得ることができる。24年度入学生からは、法律の改正により、国家試験を受けなければ、介護福祉士の資格を得ることができない。

◆看護学科教育課程概念図



◆福祉学科教育課程概念図



◆授業科目(平成24年度入学生)

1)教養科目

選択必修=介護:介護福祉士 保健:保健師

		単位	立数	1 年	三次	2 年	三次	3 年	三次	4 年	三次		
	科目名	必	選	前	後	前	後	前	後	前	後	合計	備考
		修	択	期	期	期	期	期	期	期	期		
	文学の世界		2	30		30						30	
人	哲学		2	30		30						30	介護
間系	心理学		2	30								30	福祉学科必修
	文章表現		2	30								30	
社	法律と生活		2	30		30						30	
任会	社会学		2	30		30						30	福祉学科必修
系	医療と福祉の マネジメント		2		30		30					30	介護
	基礎数学		2		30		30					30	福祉学科必修
自	化学		2	30		30						30	
然系	統計学	2					30					30	看護学科必修 介護
术	生命科学		2		30		30					30	介護
ן ב	基礎演習	1		30								30	
3>	英語 RS	2		30	30							60	
그∃	英語 CS	2		30	30							60	
ニン	中国語		2	30	30	30	30					60	
ケ	韓国語		2	30	30	30	30					60	
系	手話	1		30		30						30	福祉学科必修
情報系	情報処理演習	2		60								60	

2)総合科目 選択必修=介護:介護福祉士 保健:保健師 助産:助産師

	単位	立数	1 年	三次	2 年	F次	3 £	F次	4 年	三次		
科目名	必	選	前	後	前	後	前	後	前	後	合計	備考
	修	択	期	期	期	期	期	期	期	期		
リフ゜ロタ゛クティフ゛・ヘルス/ライツ		2		30							30	助産
社会福祉概論I	2		30								30	
コミュニケーション論	2		30								30	看護学科必修
カウンセリング		2			30						30	
公衆衛生学	2				30						30	看護学科必修
環境と人間生活		2	30								30	

エイジング論	2			30				30	看護学科必修 介護
社会保障論 I		2			30			30	福祉学科必修 保健
医療と福祉の英語		2					30	30	
健康と運動		2	30	30				60	
障がい者(児)の福祉		2				30		30	保健
医療と福祉の経済		2		30				30	
人間関係論		2				30		30	
行政法		2			30			30	
民法		2				30		30	
臨床心理学		2			30			30	

3) 看護学科専門科目 選択必修―看護:看護師のみ 保健:保健師 助産:助産師

		単位	立数	1 年	三次	2 年	三次	3 年	三次	4 年	三次	合	
	科目名	必	選	前	後	前	後	前	後	前	後	計	備考
		修	択	期	期	期	期	期	期	期	期	п	
	人体の構造と機能 I	2		30	30							60	
	人体の構造と機能Ⅱ	2		30	30							60	
	栄養学	1			30							30	
	薬理学概論	1			15							15	
	臨床薬理学	2				30						30	
	疾病の成り立ち	2			30							30	
	感染と免疫	2		30								30	
専	病態治療学I	2				30	30					60	
門	病態治療学Ⅱ	2				30	30					60	
基	病態治療学Ⅲ	2				30	30					60	
礎	専門基礎演習		1				30					30	
科	保健・医療の法律	2					30					30	
目	疫学		2					30				30	保健
			۷					30				30	助産
	保健統計学		2					30				30	保健
			4					30				30	助産
													保健
	保健医療福祉行政論		2						30			30	看護師·助
			4						50			30	産師選択
													不可
	看護学概論	2		30								30	

	1	壬	Ι.	1	1			1		1			
	-	看護倫理	1					15				15	
	-	看護コミュニケーション	1					15				15	
	看	基礎看護技術論I	2		30							30	
	護	基礎看護技術論Ⅱ	2			30						30	
	学	基礎看護技術演習I	1		30							30	
	の :::	基礎看護技術演習Ⅱ	1			30						30	
	基	看護過程	2				30	30				60	
	本	家族看護論	1						15			15	
		小児看護学概論	1				15					15	
		小児看護方法論I	1				30					30	
		小児看護方法論Ⅱ	1					30				30	
		次世代育成ケア論	1				15					15	
	成	母性看護学概論	1				15					15	
	長	母性看護方法論	2					60				60	
	発	成人看護学概論	1			15						15	
	達	成人看護方法論Ⅲ	2				30	30				60	
	と	成人看護方法論Ⅱ	2				30	30				60	
	療	成人看護方法論Ⅲ	1					30				30	
	養	助産学概論		1					15			15	
専	支	基礎助産学		2						30		30	11 -te
4	援	助産診断・技術学 I		1						15		15	助産
門	-	助産診断・技術学Ⅱ		1						30		30	手*** 在 / D
1 1		助産診断・技術学Ⅲ		1							15	15	看護師・保
科	-	助産診断・技術学Ⅳ		1							30	30	· 健師選択不
111	-	助産管理論		2							30	30	. 可
		老年看護学概論	1			15						15	
		老年看護方法論I	1				30					30	
		老年看護方法論Ⅱ	1					30				30	
		精神看護学概論	1			15						15	
	老	精神看護方法論I	1				30					30	
	年	精神看護方法論Ⅱ	1					30				30	
	と	公衆衛生看護学概論	2				30					30	
	精	健康教育論	2				30					30	
	神	公衆衛生看護											保健
	と	活動展開論 I		1					30			30	
	地	公衆衛生看護											保健
	域	活動展開論Ⅱ		1						30		30	看護師·助
1	~ `												

看	活動展開論Ⅲ											不可
護	公衆衛生看護技術論		1					30			30	保健 助産 看護師選 択不可
	母子保健活動論		1				30				30	保健 助産
	成人保健活動論		1			30					30	保健
	高齢者保健活動論		1				30				30	水)
	産業保健活動論		1						15		15	保健
	学校保健活動論		1						15		15	
	健康課題別活動論I		1					30			30	看護師·助
	健康課題別活動論Ⅱ		1					30			30	産師選択
	公衆衛生看護管理論		1						15		15	不可
	在宅ケア論I	2			30						30	
	在宅ケア論Ⅱ	2				30					30	
	セイフティマネ ジメント		1					15			15	
	リハビリテーションと看護		1					15			15	
	リエゾン精神看護論		1						15		15	
-	緩和ケア論		1						15		15	
看	救急医療と看護		1						15		15	
護	国際看護活動論		1						15		15	
の	災害看護学		1						15		15	
展開	看護マネジメント論		1						15		15	
) 기기 논	ヘルスアセスメント		1					30			30	看護
実	がん看護学		1					15			15	
践	研究方法論I	1					15				15	
	研究方法論Ⅱ	2						30			30	
	看護研究	2							30	30	60	
	看護統合(卒業 支援を含む)	2							30	30	60	
	看護実践総合演習	1								15	15	
	早期体験実習	1		45							45	
	基礎看護学実習	2			90						90	
	成人・老年看護 学実習 I	3					90	45			135	
	成人・老年 看護学実習Ⅱ	3					90	45			135	

	老年看護福祉実習	2				45	45			90	
	小児看護学実習	2				45	45			90	
	母性看護学実習	2				45	45			90	
	精神看護学実習	2				45	45			90	
	高齢者・精神										保健師·助
	地域実習		2					90		90	産師選択
	地域大自										不可
	在宅ケア実習	2				45	45			90	
	公衆衛生看護学)						,	0.0	保健
	実習 I		2					45	45	90	看護師の
	公衆衛生看護学		0					1		105	み・助産師
	実習Ⅱ		3					13	35	135	選択不可
	助産学実習 I		5					22	25	225	助産
											看護師の
	助産学実習Ⅱ		2					45	45	90	み・保健師
											選択不可。
	統合実習	2						45	45	90	

4) 福祉学科専門科目

資格必修一介護:介護福祉士 社会:社会福祉士 精神:精神保健福祉士

				нх пш				Щ			. 1113		
		単位	立数	1 年	三次	2 年	三次	3 年	三次	4 年	三次	合	
	科目名	必	選	前	後	前	後	前	後	前	後	計	備考
		修	択	期	期	期	期	期	期	期	期	口口	
	一般医学	2			30							30	
	介護の基本 I - 1	2		30								30	
	介護の基本 I - 2		2		30							30	介護
	介護の基本Ⅱ-1		2		30							30	介護
	介護の基本Ⅱ-2		2			30						30	介護
専	介護の基本Ⅲ-1		2			30						30	介護
門#	介護の基本Ⅲ-2		2				30					30	介護
基礎	介護福祉論		1		15							15	福祉
一段	コミュニケーション技術 I	2		30								30	
目目	コミュニケーション技術Ⅱ		2		30							30	介護
	社会福祉概論Ⅱ	2			30							30	
	ソーシャルワークi論 I	2			30							30	
	ソーシャルワーク論 II	2				30						30	
	払 △ 細 木 ⇒ △		0					20				0.0	介護
	社会調査論		2					30				30	社会
		-	•	-	•	•		•					

	社会保障論 I	2						30		30	
	地方自治と財政		2					30		30	
	 高齢者福祉論 I	2			30					30	
-	高齢者福祉論Ⅱ	2				30				30	
i	障害者福祉論 I	2			30					30	
ŀ	障害者福祉論Ⅱ	2				30				30	
•	児童・家庭福祉論		2						30	30	
	ソーシャルワーク論 III		2			30				30	
	ソーシャルワーク論 IV		2				30			30	社会
	ソーシャルワーク論 V		2					30		30	
	ソーシャルワーク論 VI		2						30	30	
	精神科ソーシャルワーク論		4						60	60	精神
	権利擁護と成年後見		2					30		30	社会
	公的扶助論		2					30		30	精神
	更生保護制度論		2						30	30	社会
	就労支援論		2						30	30	江云
	生活支援技術論 I	2		30						30	
基	生活支援技術論Ⅱ	2			30					30	
幹	日常生活支援技術 I-1	1		30						30	
科	日常生活支援技術 I-2	1			30					30	
目	日常生活支援技術Ⅱ-1	1			30					30	
	日常生活支援技術Ⅱ-2		1			30				30	
	日常生活支援技術Ⅲ-1		1			30				30	
-	日常生活支援技術Ⅲ-2		1				30			30	
-	日常生活支援技術IV-1		1				30			30	
	日常生活支援技術IV-2		1					30		30	
	日常生活支援技術 V-1		1					30		30	
-	日常生活支援技術 V-2		1						30	30	介護
-	認知症ケア論		2			30				30	万 岐
-	介護過程 I - 1		2			30				30	
-	介護過程 I - 2					30				30	
	介護過程Ⅱ-1		2				30			30	
	介護過程Ⅱ-2		2				30			30	
	介護過程Ⅲ		2					30		30	
	医療的ケア		6			45	45			90	
	地域福祉論 I		2				30			30	社会
	地域福祉論Ⅱ		2					30		30	精神

										1			
	保健医療論		2					30				30	介護 社会
	休 医		4					30				50	精神
	福祉経営論		2					30				30	社会
													社会
	福祉行政と福祉計画		2						30			30	精神
	精神保健学		4					30	30			60	
	精神保健福祉論		6					45	45			90	
	精神医学		4					30	30			60	精神
	精神科リハビリテーション学		4					30	30			60	4H 11
	精神保健福祉援助技 術各論		4						60			60	
	福祉機器活用論		2		30							30	
	介護ビジネス論		2							30		30	
	観光福祉論		2							30		30	
	ケアマネジメント論		2						30			30	
	ソ-シャルワーク演習 I	1				30						30	
展	ソ-シャルワーク演習 Ⅱ	1				30						30	
開開	ソーシャルワーク演習Ⅲ		1				30					30	社会
科	Y-シャルワーク演習IV		1					30				30	11.云
目	Y-シャルワーク演習 V		1								30	30	社会 精神
	精神保健福祉援助演習		2						30		30	60	必修
	ゼミナールI	1							30			30	
	ゼミナールⅡ	1								30		30	
	ゼミナール Ⅲ (卒業試験を含む)	1									30	30	
	△ #中羽 I		9			105						13	
	介護実習I		3			135						5	
	介護実習Ⅱ		4				180					18	
	刀 唆犬目 11		4				100					0	
	介護実習Ⅲ		3					135				13	介護
発			J					100				5	ノロ・「交
展	介護総合演習I		1		30							30	
科	介護総合演習Ⅱ		1		30							30	
目	介護総合演習Ⅲ		1			30						30	
	介護総合演習Ⅳ		1				30					30	
	ソーシャルワーク実習		4							180		18 0	社会
				l	<u> </u>	L	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	1	!		

ソーシャルワーク実習指導	3		90	90	
精神保健福祉援助実	9		00	00	
習指導	3		90	90	- 精神
精神保健福祉	C		225	22	个月 个甲
援助実習	6		225	5	

(4) 成績評価·単位認定·進級要件·実習履修要件

◆成績評価と単位認定

学業成績は定期試験だけではなく、臨時試験、論文、レポート、出席状況、学習態度等の結果に基づいて授業担当教員が総合的に判断する。シラバスには各科目担当教員の成績評価方法が記載されており、次の基準で評価され、評価 C 以上で単位が認定される。評価 D の場合は再履修となる。

AA: 100 点~90 点 A: 89 点~80 点 B: 79 点~70 点

C: 69 点~60 点 D: 59 点以下

成績評価の方法は学則及び学生便覧に明示している。出席確認は全科目で行われており、 そのことが、早い段階での個々の学生への細かい指導に結びついている。

前期・後期ともに追試験、再試験を行うことがある。追試験はやむを得ない事情によって試験を受けられなかった者に対して、その理由を証明する文書を添えて願い出た場合に限り実施を認めている。再試験は所定の試験を受験したが、単位を認定されなかった学生を対象に実施されることがある。

成績評価の結果は、毎年前期と後期に学生に通知すると共に、保護者に対しても前期・ 後期に学生の「成績通知書」を送付している。成績不良の学生には、クラス担任や科目担 当教員が個別に指導を行っている。

また、成績評価には GPA (Grade Point Average) 制度を導入し、毎学年末で算出した 結果を成績優秀者の表彰、履修制限助産科目履修者の選考などに利用している。

◆卒業試験

卒業試験に合格することは、看護学科は「看護実践総合演習(卒業試験を含む」(平成 24年度卒業生)、福祉学科は「ゼミナールⅢ(卒業試験を含む)」の単位認定の条件になる。

◆進級要件

両学科とも3年次に進級するためには、2年以上在学し、原則として2年次までに修 得すべき必修科目をすべて修得していることが必要である。 (学生便覧)

◆実習履修要件

各学科の専門科目に配当されている「実習科目」を履修するために必要な要件は「秋田看護福祉大学実習科目履修要件」の通りとなる。 (学生便覧)

(5) 保健師および助産師科目の履修

看護学科の保健師課程および助産師課程を専攻する学生は、3 年次前期までに修得しなければならない科目が定められている。また、実習を受ける人数も施設の関係で制約があるため、選考が行われる。

◆保健師科目

保健師課程を専攻する学生は、3年次前期までに次の科目の単位を修得していることが 条件となる。

社会福祉概論 I、社会保障論 I、保健・医療の法律、保健統計学、公衆衛生看護学概論、 公衆衛生看護活動展開論 I、成人保健活動論、公衆衛生学、障がい者(児)の福祉、 疫学、家族看護論、健康教育論、母子保健活動論、高齢者保健活動論

(学生便覧)

◆助産師科目

助産師課程を専攻する(助産師科目を履修する)学生は、3年次前期までに次の科目の 単位を修得していることが条件となる。

<助産師科目>

<3年次前期までに単位を修得していなければならない科目>

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、保健・医療と法律、小児看護学概論、母性看護学概論、母性看護方法論、家族看護論、保健統計学、病態治療学Ⅲ、次世代育成ケア論、小児看護方法論Ⅰ、健康教育論、助産学概論、疫学、母子保健活動論

(学生便覧)

(6) 卒業要件単位数

(平成24年度入学生)

区八		看護学科	福祉学科
区分		単位数	単位数
教養科目	必修	9 単位	14 単位
	選択	8 単位以上	8 単位以上
総合科目	必修	8 単位	4 単位
	選択	6 単位以上	10 単位以上
専門基礎科目	必修	20 単位	
専門科目	必修	69 単位	34 単位
	選択	5 単位以上	54 単位以上
合 計		125 単位以上	124 単位以上

◆国家試験受験資格取得のための履修単位(卒業要件単位数を含む)

・平成24年度入学生の場合

「看護学科]

資格	単位数		
看護師	125 単位以上		
看護師・保健師	143 単位以上		
看護師・助産師	142 単位以上		

「福祉学科]

資格	単位数
介護福祉士	124 単位以上
社会福祉士	124 単位以上
精神保健福祉士	124 単位以上
社会福祉士	147 単位以上
精神保健福祉士	147 单位以上
介護福祉士	162 単位以上
社会福祉士	102 单位以上
介護福祉士	
社会福祉士	198 単位以上
精神保健福祉士	

◆履修登録上限単位数と履修登録指導

1 学年の履修単位の上限は 60 単位とする。しかしながら、国家試験受験資格を得る場合に上限を超える可能性があるため、特例とし、学修支援に十分に配慮する。

履修登録の指導はガイダンス・個別指導などで行っている。その際は履修モデル等の資料を提示し、学生の希望する取得資格により履修漏れのないようにしている。

(7) ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

◆ディプロマ・ポリシー

秋田看護福祉大学は、所定の単位を修得することにより、次に示す能力を持つことを保証し、卒業を認定して学位を授与する。

- 1) 幅広い教養と人権や生命の尊厳への深い理解、豊かな人間性を涵養する姿勢。
- 2) 問題をみつけ、論理的、科学的に思考し、解決方法を考え、表現する力
- 3) 自分で考え、判断し、倫理観を持って主体的に行動する能力
- 4) 専門領域の基礎・基本を身につけ、向上心を持って生涯学び続ける姿勢。
- 5) 専門職者としての知識と技術を身につけ、それらを実践的に統合し、応用する力。

◆学位

本学に4年以上在学し、卒業所要単位数を取得した者に、次の学位を授与する。

看護福祉学部看護学科 学士(看護学)

福祉学科 学士(社会福祉学)

(秋田看護福祉大学学則)

[自己評価および改善計画]

6つの資格に関する指定規則の変更に合わせたカリキュラムの改正は一応終わったが、 学生の負担軽減と本学の特色を出すために、カリキュラムの更なる検討が必要であるため、 「教養科目」「総合科目」の再検討も含め、更なるカリキュラムの改正が必要である。

卒業試験は本学の出口力を保証するものとして定着している。しかしながら、学生が目指す資格との兼ね合いも考慮する必要があり、実践力についての保証についても考えなければならない。

ディプロマ・ポリシーに示す人物像は本学の教育の中で、学生に「このような人に育って社会に出て欲しい」「このような職業人として社会に貢献して欲しい」と願っていることであり、建学の精神、使命・目的、教育目標やカリキュラム・ポリシーと連携している。教育の目標、本学の特色・個性、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー等の学生・保護者等への周知については、まだ不十分であると考えられるため、一層の努力が必要である。

4. 学修支援

(1) 学修支援体制

◆クラス担任(学年担任)

本学はクラス担任制をとっている。1クラスが看護学科 60 人前後、福祉学科 35 人前後であり、担任の教員は1人である。3 年次・4 年次では看護研究・ゼミ担当教員が学生 5人前後を受け持ち、クラス担任との協働で学生の支援を行っている。

クラス担任 指導マニュアル

1) クラス担任の役割

- (1) クラス担任は各学年に1名配置され、原則4年間継続して担当する。
- (2) 学生の学修や生活面の指導、就職支援などの相談に主体となって応じる。
- (3) 1~3 年次では、成績や出席状況、生活面などで指導を要する学生に対して随時面接や指導を行う。
- (4) 3 年次からは卒業研究(ゼミナール)担当教員が主体となって学修や生活面の指導に加えて 就職支援や国家試験対策を行う。そのため、クラス担任は卒業研究担当教員と連絡をとり あい、協力体制をとって学生への指導にあたる。
- (5) 学科長、教務委員会、学生委員会、就職委員会等に所属する教員は教務や学生生活、就職 支援などについて協力体制をとる。また、単位未修得や欠席日数の過多など進級・卒業に 関わる問題が生じた際は関係教員と協力し、学生や保護者との面接等連絡調整を行う。
- (6) 学修面では各教科担当教員と協力体制をとる。
- (7) 必要時、学科会議で学生の近況報告や対応についての相談をする。
- (8) 保護者との連絡・調整などを主体となって行う。

2) 学生との面接について

(1) 面接時期・主な内容

学年	面接時期	主な面接内容				
1年生	5月	学修や生活面				
0 年 生	①5月	学修や生活面				
2年生	②2 月	資格取得の選択				
	①4・5月	資格取得の選択				
3年生	②11 月以降	学修・生活面・就職・進学・国家試験				
	②11 月以降	対策				
4 年 出	適宜	学修・生活面・就職・進学・国家試験				
4 年生	(各ゼミ担当教員が主体となるため)	対策				

- (2) 学生1名について15~20分程度の面接とする。
- (3) 所定の様式に基づいて(教務委員会から配布)面接の内容を記録し、厳重に保管する。
- (4) 随時、個別の相談に応じる。内容によるが時間は最長1時間を目安にする。
- (5) 担当する学生に学業継続が困難となる問題が生じた場合(単位取得不十分・出席日数不足・授業料滞納他)は、学生本人とクラス担任による面接はもちろん、必要に応じて保護者・学長・学科長・教務委員長・事務担当者らとも時間等を調整して面接を行い、今後の方針・対応について検討する(特に2年生から3年生への進級の際)。

3) クラス担任の引きつぎ(担任が交代する場合)

年度末に前年度までのクラス担任が次のクラス担任へ、学生指導の内容・面接の方法などについて、記録を参照しながら要点の申し送りを行う。面接の記録などはそのまま次のクラス担任が引き継ぎ管理する。

平成24年3月27日(火)教務委員会

◆TA (Teaching Assistant)

非常勤講師の教材準備等は教務事務室の職員が行っている。また、「情報処理演習」では 専門職員が教員と共に学生の指導に当たっている。「基礎看護技術演習」は学生 10 人に対 し指導者 1 名の体制をとっており、専任教員の他に看護師である実習補助者が指導に当た っている。看護学科の病院及び施設等での実習においても、専任教員の他に実習補助者が 指導に当たり、専任教員を支援している。

◆履修登録指導

学生の履修登録・単位取得への支援は教職員の協働で行っている。特に資格取得に伴う 履修科目の登録は複雑なため、ガイダンスにおける学生全体への説明の他に、教務委員会 の教員、学務課職員、クラス担任により、繰り返し説明と相談が行われている。

履修登録は通常、次のような手順で行っている。

①履修ガイダンス(履修についての説明)⇒②履修届出用紙への記入→学務課へ登録 ⇒③学務課から学生へ履修確認表を配布 ⇒④履修の修正申請・再登録

◆学生指導記録

クラス担任、ゼミ担当教員、事務職員など、すべての教職員は学生指導記録(様式を統一)を作成し、年度末に事務部学務課に提出する。この記録はクラス担任引継ぎ等に利用される。また、その保管および使用に際してはプライバシーの保護に留意する。

(2) 卒業率・退学率

<卒業率>

·平成17年度~平成20年度入学生

看護学科 入学 231 名 卒業 217 名 卒業率 93.9% 福祉学科 入学 130 名 卒業 128 名 卒業率 98.5% 全体 入学 361 名 卒業 346 名 卒業率 95.8%

<退学率>

・平成17年度~平成20年度入学生(卒業生)

看護学科 入学 231 名 退学 13 名 退学率 5.6% 福祉学科 入学 130 名 退学 2 名 退学率 1.5% 全体 入学 361 名 退学 15 名 退学率 4.1%

・平成21年度~平成24年度入学生(在学生)

看護学科 入学 241名 退学 6名 退学率 2.5% 福祉学科 入学 130名 退学 1名 退学率 0.8% 全体 入学 371名 退学 7名 退学率 1.9%

<退学・休学者の人数と理由(平成17年度~平成24年度)>

	看記	養学科	福祉学科				
	休学	退学	休学	退学			
人数	9	19	3	3			
理由	進路の悩み 2	進路変更 7	進路の悩み 2	進路変更 2			
	体調不良(精神)5	体調不良(精神) 12	勉学意欲低下1	経済的理由 1			
	体調不良(その他)2	死亡(交通事故) 1					

<退学者の入学試験区分(平成17年度~平成24年度)>

	AO	社会人	推薦附属	推薦 指定 校	推薦一般	推薦前期	一般前期	一般後期	セン ター 前期	合計
福祉	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
看護	0	0	2	0	3	2	8	3	1	19
合計	1	1	2	1	3	2	8	3	1	22

ひとりの学生が退学に至る経過には学生個人の複雑な心情があり、その理由を一概に「学力不足」「経済的理由」「精神疾患」と分けることは難しい。「その発端は何であったの

か」を推測して「理由」とした。

体調不良(精神)の場合は高校までの既往歴がある場合が多く、休学から退学に至ることが多い。看護学科の場合は、「退学者の入学試験区分」に示すように、「推薦」と「一般前期」受験者に多い。「一般前期」の場合はあこがれや周囲の勧めで受験したが、学んでみて、自分に合わないと感じて別の進路にする場合があり、福祉学科に比べ「看護学科」学生の退学者が多い一因となっている。また、「推薦」の場合は学力への不安から「進路変更」に至ることが多い。福祉学科の場合は AO 入学試験および推薦入学試験での合格者が多いが、進路についてかなりの熟慮の上で受験しているため、進路変更に至る例が少ないとみられる。

全学年が揃った平成 17年度~20年度の 4年間における退学者は 15人(看護学科 13人、福祉学科 2人)だった。この期間を平均すると、全体で年間 3.8人(看護学科 3.3人、福祉学科 0.5人)である。

<留年者>(3年次進級または卒業に際し、単位不足により、実習要件を満たさず、留年 した学生で卒業に至った学生)

本学は平成17年に開学した。平成18年度から平成23年度までに卒業した学生のうち、留年した学生(休学・退学者は除く)は看護学科6人、福祉学科1人、合計7人である。これらの学生については、本人や保護者とクラス担任・学科長との面談を重ね、本人の要望と保護者の理解を得て、退学せずに卒業に至っている。学生はこの留年の間に学力不足を補い、就職している。この留年期間はこれらの学生にとって入学時の目的を達するために必要な期間であったと、認識している。

なお、留年の理由は、1人は体調不良(精神)であり、6人は学力不足である。

[自己評価および改善計画]

平成17年度入学生~20年度入学生の1学年の4年間の退学者の平均は看護学科3.3人、福祉学科0.5人である。学生数を考慮しても看護学科の退学者が多い。看護学科では、受験時のあこがれや周囲の勧めで入学したものの、入学後の学習内容や実習によって看護師に適しているかの疑問を持つ学生が休学・退学に至っている場合、また、入学前の不登校や精神的不安定の経験を持つことから、看護師という職業に気持ちが傾いて入学するが、それが再発する学生が休学や退学に至っている場合が多い。入試区分としては、一般前期入試による入学者が多いのは、やはり「あこがれ」が優先し、自分の適性への配慮に至らないのではないかと思われる。

留年(学力不足)→経済的困難→退学(進路変更)に至った場合が 1 人、全くの経済的理由からの退学は 1 人であった。奨学金の得やすい看護・福祉の学生であり、この点では他学部学生よりかなり恵まれている。平成 23 年の大震災による被害の大きかった学生も病院の奨学金を得て無事に卒業した。

これらのことから、高校生の看護職・福祉職への理解が不十分である可能性があるため、 今後の入試活動では、この点へ配慮すると共に、経済的理由での退学はないよう、今後も 学生および保護者への説明に特に留意する。

本学の入学後の修学支援体制は「Face to Face」のキャッチフレーズのもとに、きめ細

かく行われている。退学や休学を少なくするためにも、今後は、入試活動を含め、保護者 との関わりも考え、きめ細かい配慮の学修支援活動をする。

5. ファカルティ・デベロップメント (FD) 推進活動

教育の質向上を目指し、本学ではファカルティ・デベロップメント (FD) 推進委員会を中心に、教員の指導力の向上をめざし、次のような活動を行っている。

(1) 学生による授業評価アンケート

「学生による授業評価アンケート」は本学の開設(平成 17 年 4 月)以来、前期・後期の期末に毎年行っている。全体的に学生の授業評価は高い水準を保っているが、学生が「難しい」と思っている科目の評価は低い傾向にある。

◆平成 24 年度前期科目への「学生による授業評価」 <平成 24 年度前期「学生による授業評価アンケート」結果>

【質問項目】

1. 準備: 教員は講義時間をきちんと守り、シラバスに則り、十分な準備の上で熱心に授業に取り組んでいました。

2. 理解:この授業はよく理解できました。

3. 努力:授業内容を良く理解できるように、自分で努力(予習・復習など)しました。

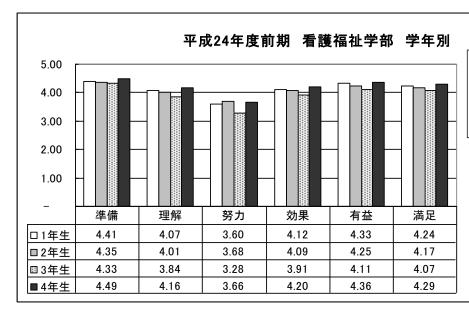
4. 効果:授業方法(話し方、板書、視聴覚教材、配布資料等)は、授業の理解に効果的でした。

5. 有益:この授業は知識・考え方・技術の修得という点で有益でした。

【評価尺度】

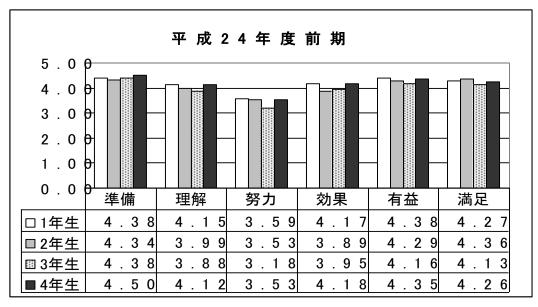
5:強くそう思う 4:そう思う 3:どちらともいえない

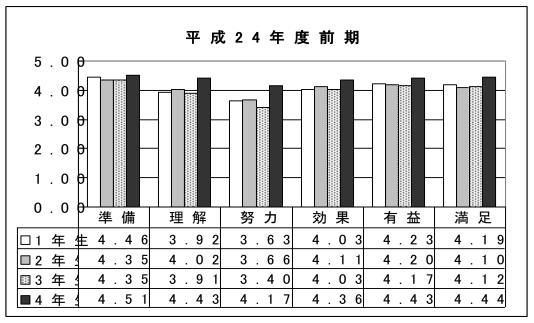
2:そう思わない 1:全くそう思わない

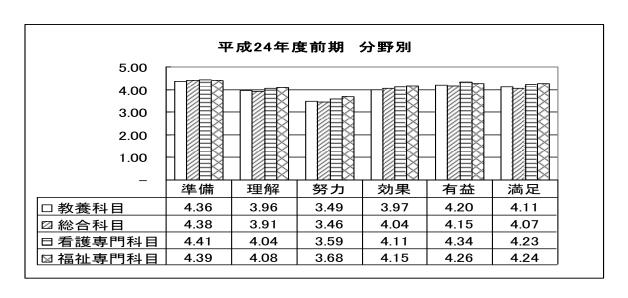


N(回収率) 1年生1231(85.7) 2年生1264(64.0) 3年生 444(50.9) 4年生 236(42.1)

- ・「努力」の評価が 最も低い。
- ・学年別では4年生が高く、3年生が最も低いが、「努力」以外は、差は大きくない。







学生による授業評価からは、次のことがいえる。

- ①どの学年も「努力」の評価が最も低い。
- ②学年別では4年生が最も高く、3年生が最も低い。
- ③分野別の差はあまり大きくない。

以上の結果から、国家試験が強く意識される 4 年生の勉学への意欲は高い。教員は 1 年生~3 年生の勉学意欲(努力する)を上げるよう、勉学に興味を示す授業を工夫する必要がある。学年により履修科目が異なるため、分野別の比較は好ましくないかも知れないが、「資格取得」を目的に入学してきた学生に教養科目の大切さを理解してもらい、人間性豊かな社会人となる基盤づくりをする必要がある。

<アンケート調査後>

- ・学生の授業評価は全教員に配布し、学生に公表する。
- ・教員への学生の意見(記述部分)は各科目担当教員に配布する。
- ・教員は学生による評価に対する異論の有無、学生の要望に対する対応策、授業での工 夫や変更点についての対応策を FD 推進委員会に提出する。
- ・FD 推進委員会は教員から提出された対応策を教授会に報告する。

(2) 学生による臨地実習評価 (看護学科)

看護実習計画委員会は「臨地実習評価」を毎年行っている。平成 23 年度の評価を次に示す。

- 評価尺度
 - 5: 非常にあてはまる 4: あてはまる 3: どちらでもない
 - 2:あまりあてはまらない 1:かなりあてはまらない
- ・評価項目(A:早期体験実習、基礎看護学実習)
 - ①オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うために役立った。
 - ②実習の目的・目標をふまえた実習を展開できた。
 - ③実習は看護師をめざすための自覚の高揚につながるものであった。
 - ④カンファレンスによって実習内容を意味づけることができた。
 - ⑤カンファレンスの時間は適切だった。
 - ⑥記録物・提出物の量は適切であった。
 - ⑦学生同士が協力し合うことが出来た。
 - ⑧今までの学習内容を活用しながら実習を展開できた。
 - ⑨必要に応じて教員に助言を求めることができた。
 - ⑩必要に応じて看護師・助産師に助言を求めることができた。
 - ⑪教員は学生の質問に分り易く答えていた。
 - ②看護師・助産師は学生の質問に分り易く答えていた。

· 平均評価 (A)

科目	学年	回収枚数	実習場所	平均評価
早期体験実習	1年生	57	病院	4.2
基礎看護学実習	2年生	57	病院	4.0

- ・評価項目 (B: 高齢者看護福祉実習、在宅ケア実習)
 - ①学内オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うために役立った。
 - ②施設オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うために役立った。
 - ③実習の目的・目標を踏まえた実習を展開できた。
 - ④今までの学習内容を活用しながら実習を展開できた。
 - ⑤実習を通して、毎日の実習目標を達成することができた。
 - ⑥実習を通して、各自の実習目標・実習課題を達成することができた。
 - ⑦反省会において、実習で実践した内容を確認することができた。
 - ⑧学生同士が協力しあい実習することができた。
 - ⑨記録物・提出物は実習を展開するうえで、適切だった。
 - ⑩実習は看護師をめざすための自覚の高揚につながるものであった。
 - ⑪実習を通して、看護が実践されている場・対象に学ぶことがあった。
 - ②自分から必要に応じて、実習指導者に助言を求めることができた。
 - ⑬実習指導者は学生の質問に分り易く答えていた。
 - ④実習指導者の利用者(対象者)に対する態度から学ぶことがあった。
 - ⑤実習指導者は反省会に参加し、助言してくれた。

· 平均評価 (B)

科目	学年	回収枚数	実習場所	平均評価
高齢者看護福祉実習	3年生	52	施設	4.4
在宅ケア実習	3年生	52	施設	4.4

- ・評価項目 (C:成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学 実習、精神看護学実習、助産学実習)
 - ①オリエンテーションの内容は実習を行うために役立った。
 - ②実習前・実習中を通して必要な学習課題に取り組むことができた。
 - ③今までの学習内容を活用しながら実習を展開できた。
 - ④目的・目標を踏まえた実習を展開できた。
 - ⑤受け持ち患者に対し、計画・実施・評価の一連の流れに沿って実習を行うことがで きた。
 - ⑥実習は看護師をめざすための自覚の高揚につながるものであった。
 - ⑦学生同士が協力しあい実習することができた。
 - ⑧目標としていた援助を適切に患者に行うことができた。
 - ⑨必要に応じて教員に援助を求めることができた。
 - ⑩必要に応じて看護師・助産師に援助を求めることができた。

- ⑪教員は学生の質問に分り易く答えていた。
- ②看護師・助産師は学生の質問に分り易く答えていた。
- ⑩カンファレンスによって実習で実践した内容を意味づけることが出来た。
- ④カンファレンスに積極的に参加できた。
- ⑤記録物・提出物の量は適切だった。
- ・実習評価 (C)

科目	学年	回収枚数	実習場所	平均評価
成人看護学実習I	3年生	59	病院	4.3
成人看護学実習Ⅱ	3年生	5 3	病院	4.2
小児看護学実習	3年生	49	病院	4.3
母性看護学実習	3年生	49	病院	4.4
精神看護学実習	3年生	56	病院	4.3
助産学実習	4年生	5	病院	4.1

・評価項目 (D:地域看護学実習)

- ①オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うために役立った。
- ②実習前・実習中を通して必要な学習課題に取り組むことができた。
- ③実習の目的・目標を踏まえた実習を展開できた。
- ④今までの学習内容を活用しながら実習を展開できた。
- ⑤実習を通して、毎日の実習目標を達成することができた。
- ⑥実習を通して、各自の実習目標・実習課題を達成することができた。
- ⑦反省会において、実習で実践した内容を確認することができた。
- ⑧学生同士が協力しあい実習することができた。
- ⑨実習は看護職をめざすための自覚の高揚につながるものだった。
- ⑩実習を通して看護が実践されている場・対象に学ぶことがあった。
- ⑩自分から必要に応じて、実習指導者に助言を求めることができた。
- ⑫実習指導者は学生の質問に分り易く答えていた。
- ⑬実習指導者は反省会に参加し、助言してくれた。
- ⑭反省会・カンファレンスに積極的に参加できた。
- ⑮記録物・提出物は実習の展開や学びを確認するために役立った。
- · 平均評価 (D)

科目	学年	回収枚数	実習場所	平均評価	
地域看護学実習	4 年生	54	保健所	4.6	
			市町村		

(3) 学生の臨地実習における「目標達成」についてのアンケート (看護学科)

看護実習指導計画委員会では、臨地実習の学修効果を知るために、実習終了後、アンケート調査を行い、その結果を次年度に活かし、より充実した臨地実習となる努力を重ねている。

「地域看護学実習Ⅱ」 平成 24 年度前期 配布 59 部 回収 44 部 (回収率 74.6%)

「実習要項」の目標への理解	良く理解できた	理解できた	あまり理解 できなかっ た	理解できなかった
実習地域の地域診断 (情報収集・分析・健康問題の抽出など) の方法を理解できる	3 人 (6.8%)	39 人 (88.7%)	2 人 (4.5%)	0人
個人・家族・集団ならびに地域全体に 対する活動計画の立案を理解できる	8 人 (18.2%)	31 人 (70.4%)	5 人 (11.4%)	0 人
地域保健活動における保健所や市町 村の役割と機能を理解できる	19 人 (43.2%)	25 人 (56.8%)	0 人	0 人
健康課題の背景や住民の多様なニーズを理解し、地域十問の健康問題解決 h向けた支援活動の実際を理解できる	19 人 (43.2%)	25 人 (56.8%)	0 人	0 人
保健・医療・福祉行政における健康関連施策と行政組織の一員として、地域 看護活動における保健師の役割(独自性・専門性)を理解できる	13 人 (29.5%)	30 人 (68.2%)	1 人 (2.3%)	0人
地域保健医療福祉活動と地域ケアシ ステム・地域ケアコーディネーション を理解できる	6 人 (13.7%)	35 人 (79.5%)	2 人 (4.5%)	無回答 1 人 (2.3%)
臨床看護と地域看護の違いについて 理解できる	12 人 (27.3%)	32 人 (72.7%)	0 人	0人
実習目標の達成	良く達成された	あまり達 成されな かった	達成され なかった	
実習期間を通じての「各自の実習目標および実習課題」は達成できた	11 人 (25.0%)	31 人 (70.4%)	1 人 (2.3%)	無回答 1人 (2.3%)
毎日の「実習目標や課題」は実習により達成された	28 人 (63.6%)	15 人 (34. 1%)	0人	その他 1人 (2.3%)

(4) FD ワークショップ

- ◆第1回FDワークショップ(平成24年7月5日(木))
 - ・テーマ:学生が主体的に学ぶための授業の工夫
 - ・開催の趣旨: FD 推進委員会の平成 24 年度の目標は、本学の目標である「教育力の向上」を取り上げ、「学生の『生涯学び続け、主体的に考える力』を育成する」とし

た。ワークショップでは、全教職員が普段から実践していることや考えていることを忌憚なくデスカッションすることで、「教育力の向上」について何らかの示唆が得られることを目的にこのワークショップを開催する。事務職員の方には、普段からどのような思いで学生と接しているかなどを、教員とは違った視点で発言していただくことで、有意義なワークショップとしたい。

- ·参加者: 教職員 32 名(出席率 80%)
- ・スケジュール等: I グループ 6 名のワークグループ。司会 2 名。メンバーの自己紹介後、60 分デスカッションし、グループ毎の発表が 30 分。
- ・終了後、発表の要旨を全教職員にメール配信
- ・参加者に「FD ワークショップアンケート」を実施。回収率 100%。 ワークショップは有意義であり、今後も開催して欲しいという意見がほとんどだった。

(5) FD 講演会

- ◆平成 24 年度 FD 研修会
- ・日時 平成24年11月15日(木) 14:40~16:10 大会議室
- ・講師 岩手県立大学 社会福祉学部福祉系学科社会システム教育群 高橋聡 教授
- ・テーマ 「学生の意欲を高める教育活動」
- ・出席者 教員 21 名 (65.6%)

(6) 公開授業

- ◆平成24年度公開授業
- 看護学科
 - 11月13日(火)4時限目 219中教場 岩間薫 教授 「母性看護方法論」
- •福祉学科
 - 11月12日(月)5時限目 219中教場 佐織壽雄 講師 「精神保健学」
- ・検討会
 - 11月13日(火)16時20分~ 大会議室 公開授業に関する検討会

[自己評価および改善計画]

全国的な「大学教育改革」は「全入時代」を生き抜くためにも、また、日本が教育力を再生し、国際的な競争社会を生き抜くためにも、避けて通れないことである。「社会が求める大学」とは何なのか、大学自身で実感することが必要である。そのためにはまず、種々のアンケート調査の結果を大学の改善・教育力の向上に活用する必要がある。

「学生による授業評価アンケート」は平成 17 年の開学から続けていることもあり、見直しの時期にある。その結果を何に役立てるのかを考え、それに費やす労力と時間が見合う教育改善になるようにしたい。

看護学科は実習に関する評価制度を秋田桂城短期大学の時から取り入れている。学生に

よる実習および教員・実習指導者への評価、学生の実習目標到達状況、実習指導者の意見、教員の意見などを統合し、毎年の実習の改善・向上に活かしている。

今後もFD推進活動を継続的に行い、PDCAに従い、その結果を大学改善に生かす。実習に関しても、両学科の実習計画委員会が軸となり、実習施設と連携し、充実した学修となるよう努力する。

第5章 学生

1. 学生生活

(1) 教育指導室

本学の教育指導室は法人の教育指導室の分室として、学生が快適に学生生活を送ることができるように、助言・指導を行っている。内容としては、学生相談、キャンパスマナー、受講マナー、服装・頭髪・装身具、交通安全などである。担当者として室長・教育指導主任(いずれも兼任)が配置されている。学生は事務部学生係、保健室、担任など、相談しやすい所を窓口とする。

(2)保健室の利用

保健師が常駐し、日常の応急手当、健康相談などを行っている。

◆予防接種

看護学科学生については、学生および入院患者等の安全を確保する目的で、罹患した感染症や予防接種状況について、入学時に母子健康手帳に基づいて調査している。「罹患も予防接種もしていない」「不明」の学生には、1年次の後期授業開始前までに予防接種を終えてもらう。

・対象予防接種: B C G・麻疹・風疹(法律に基づく定期予防接種) 水痘・おたふくかぜ・B型肝炎(任意予防接種)

◆平成23年度利用状況

内容	利用者数	内容	利用者数
内科系	331	予防接種関係	603
外科系	109	相談	242
眼科・歯科・皮	81	検診後事後処理	(43)
膚科耳鼻咽喉科		相談	(184)
など		保健指導	(15)
検診等	562		
		学生 計	1928
		教職員 計	76
		合計	2004

(3) 学生会・クラブ・サークル活動

◆学生会

秋田看護福祉大学学生会会則により、学生会が組織されている。学生会は学生によって 組織され、クラブ・サークル活動、体育祭、大学祭などを企画・実行している。

<クラブ・サークル活動>

- ・文化局:地域交流サークル、軽音楽サークル、ブラスバンド同好会、手話サークル、 B 愛 STAR ピアサークル、文芸サークル、cotton canndy、現代映像文化同好会
- ・体育局: バレーボールサークル、軟式野球サークル、バスケットボールサークル、陸 上サークル、フットサルサークル、バドミントンサークル、ソフトテニスサークル

(4) 学生の意見・要望の把握

- ◆学長との懇談会
 - ・平成24年1月25日(水):リーダーズミーティング(学生会新・旧役員) 主な内容
 - ①卒業アルバム・学食・卒業記念祝賀会 ②震災後の放送設備の修理
 - ③節電 ④防災訓練 ⑤この懇談会の内容の掲示の仕方

などについての意見が出された。

◆意見箱

意見箱に投稿された意見への回答は掲示板に掲示される。

◆学生による授業評価

FD 推進委員会による「学生による授業評価アンケート」は毎年継続的に行われ、その結果は学生にも公開される。記述による授業への意見は担当教員に伝えられ、それに対する対応策は FD 推進委員会に文書で報告される。

◆大学満足度調査

新入生・在学生・卒業生を対象とする「満足度調査」には、学生の本学に対する「良い 点」「改善すべき点」など様々な意見が述べられている。

(5) 保護者懇談会

学生が安心して学生生活を送ることが出来るよう、年 1 回「保護者懇談会」を開催し、保護者との情報交換を行っている。保護者との面談は 1 人 15 分程度である。

- ◆平成24年度保護者懇談会(平成24年9月1日(土)、秋田看護福祉大学)
 - ◇内容:各学科の現状(看護学科・福祉学科)
 - ·教育 ·就職状況 ·国家試験対策
 - ◇個別面談(教員と保護者、希望する場合は学生も参加)

出席者人数 (面談人数)

	看護学科	福祉学科	合 計
1年生	23 (14)	12 (9)	35 (21)
2 年生	13 (7)	11 (7)	24 (15)
3年生	16 (6)	9 (7)	25 (15)
4年生	13 (11)	12 (11)	25 (22)
合 計	65 (38)	44 (34)	109 (72)

・面談の主な内容

成績、日々の生活、就職支援、国家資格の取得、実習、大学の様子などである。

- ・保護者は大学の現状と学生の現状について、学生の置かれている現実の問題として とらえ、日頃の疑問点のいくつかを解決できたと思われる。すべての学生と保護者 との間にコミュニケーションが良くとれているとは限らず、保護者にとっても、教 職員にとっても、有意義であったと思われる。
- ・継続して面談が必要な場合は随時、クラス担任との面談を行う。

◇教員からの意見

- ・学科ごとの説明時間を設けないことで、全体説明では質問が出にくい可能性があるが、午後のみの時間帯を使うことは望ましいと思われる。
- ・個別面談に参加しない方からの意見・質問を受ける方法も考えるべきである。

(6) ボランティア活動

平成24年4月~12月の、学生課に届出のあったボランティア活動は次の通りである。

月 日	ボランティア派遣先	参加人数
5月3日	秋田犬保存回	4
5月26日	比内養護学校大運動会	5
6月17日	十二所保育園運動会	2
6月17日	大館圏域ふくし会「合同大運動会」	8
6月23日	第 43 回東北ろうあ者体育大会	8
24 日		
6月24日	特別養護老人ホーム水交苑運動会	4
7月7日	城南保育園ボランティア	10
8月4日	特別養護老人ホーム扇寿苑 夏祭ボランティア	8
8月9日	成章園夏祭り	1
8月29日	大館市育児講座	2
9月1日	城南保育園分園運動会	2
9月22日	大館市生涯学習フェスティバル	3
23 日		
10月7日	第 25 回大館ボランティアフェスティバル	2
10月13日	本場大館きりたんぽ祭り	3
14 日		_
11月3日	秋田犬保存会	15
	合 計	77

(7) 国家試験対策

看護学科・福祉学科とも、「国家試験対策チーム」をつくり、学科教員全員でサポートしている。福祉学科では「福祉行政研究室」において、公務員試験対策を行っている。 模擬試験は自己採点を行い、その結果を迅速に反映した指導をしている。また、国家試験終了後、4年生と3年生の懇談会を行い、国家試験対策や就職活動について、先輩から後輩に情報の引き継ぎを行っている。

1) 看護学科

◇1・2 年生

- ・国家試験対策オリエンテーション
- ·模擬試験(1年生:専門基礎科目、2年生:必修問題)

◇3 年生

- ・国家試験対策オリエンテーション
- 模擬試験(必修 一般問題)
- ・4年生と3年生の懇談会

◇4 年生

- ・教員による学習会(合同:週1回、卒業研究グループ単位:週1回)
- ·看護師国家試験模擬試験8回
- ·保健師国家試験模擬試験 6 回
- ·助産師国家試験模擬試験 5 回
- ・特別学習会 (特訓メンバー。10月から2月までの月~金の9時~17時。)
- ・4年生と3年生の懇談会

2) 福祉学科

$\Diamond 1$ 年生

- ・国家試験対策オリエンテーション
- ·勉強会(10月~3月、月1回)

$\diamondsuit 2$ 年生

- ・国家試験対策オリエンテーション ・レポート課題 (課題検討会)
- ・個人ワーク、グループ学習・模擬試験

◇3 年生

- ・国家試験対策オリエンテーション ・模擬試験
- ・課題検討会・小グループ学習

◇4 年生

- ・共通科目対策 ・専門科目対策 ・弱点補強対策 ・合格キャッチ対策
- 模擬試験
- 3) 国家試験成績

<看護師・保健師・助産師国家試験成績(看護学科)>

卒業生	看護師		保健師		助産師	
平未生	受験者	合格率	受験者	合格率	受験者	合格率
第1期生(平成21年3月卒)	50 人	95.9%	50 人	95.5%	5 人	100.0%
第2期生(平成22年3月卒)	54 人	96.3%	50 人	62.0%	4 人	25.0%
第3期生(平成23年3月卒)	54 人	100.0%	48 人	85.4%	5 人	100.0%
第4期生(平成24年3月卒)	60 人	96.7%	47 人	89.4%	5 人	100.0%

<社会福祉士国家試験成績(社会福祉学科)>

卒業生	受験者	合格者	合格率
第1期生(平成21年3月卒)	32 人	18 人	56.3%
第2期生(平成22年3月卒)	27 人	6 人	22.2%
第3期生(平成23年3月卒)	38 人	20 人	52.6%
第4期生(平成24年3月卒)	26 人	11 人	42.3%

・社会福祉学科卒業生は全員介護福祉士の資格を得る。

- ・平成21年度入学生から福祉学科卒業となる。
- ・精神保健福祉士は平成21年度から養成が始まった。

[自己評価・改善計画]

保健室はよく利用されている。実習に臨み、看護学科学生の予防接種の把握と実施、および福祉学科学生の腸内細菌検査は厳密に行われている。また、保健室は「さわやか保健室」として、身体・精神に関する様々な相談を受けている。病医院への紹介も適切に行われている。

国家試験対策は学習会や模擬試験を中心に行っている。国家試験の合格率は年によって変動があるが、過去の結果を参考に対策を強化している。保護者への情報提供(模擬試験の結果など)も行い、特別の支援が必要な学生の場合の保護者との情報交換は特に密に行っている。課題は「学生のモチベーションをどのように向上させるか」である。「支援する」と「主体性を育む」の兼ね合いに配慮し、「甘え」にならないような「支援」でなければならない。

2. 奨学金制度

- 1) 本学としての奨学金
- ◆秋田看護福祉大学経済支援奨学金制度(年額学生納付金相当額の範囲)
- ◆秋田看護福祉大学福祉学科入学支援奨学金制度(入学時に最大 50 万円)
- ◆学業奨学金制度
 - ・第 I 種学業奨学生 申請者の中から学科・学年別に 2 名以内。当該学年の授業料の半額を免除する。
 - ・第Ⅱ種学業奨学生 推薦入試および一般入試の合格者(1年生)のうち、希望する学生若干名(学科別)の入学金を免除する。
- ◆学園内大学入学金支援制度 明桜高校(学園内高校)から入学する者に対し、入学金の半額を免除する。
- ◆家族学費支援制度

入学者の保護者及び兄弟姉妹が、本法人が設置する大学を卒業又は現に在籍している 場合、入学者の学納金の一部を免除する。

- 2) その他の奨学金
- ◆日本学生支援機構奨学金
- ◆地方自治体の修学・奨学資金
 - · 秋田県看護職員修学資金 · 介護福祉士等修学資金 · 青森県育英奨学金
 - ・岩手県看護職員修学資金 ・福島県修学資金 など
- ◆民間団体・病院の奨学金制度
 - ・あしなが育英会 など

3) 平成24年度 奨学金の利用者(病院を除く)

to the	安华之牙	貸与
名称 	実施主体	人数
秋田看護福祉大学福祉学科入学支援奨学金	秋田看護福祉大学	14
秋田看護福祉大学経済支援奨学金	秋田看護福祉大学	0
家族学費支援制度	学校法人	4
	ノースアジア大学	4
学園内大学入学支援制度	学校法人	4
子图的八子八子又按前皮	ノースアジア大学	4
第 I 種学業奨学金	学校法人	11
第 1 性 1 是 1 是 2 E 2 	ノースアジア大学	11
 第Ⅱ種学業奨学金	学校法人	3
第 II 俚于未夹子並	ノースアジア大学	Э
日本学生支援機構奨学金 第一種	日本学生支援機構	53
日本学生支援機構奨学金 第二種	日本学生支援機構	144
秋田県看護職員修学資金	秋田県	6
介護福祉士等修学資金	秋田県社会福祉協議会	17
青森県育英奨学生	青森県	1
八戸市奨学生	八戸市	1
岩手県看護職員修学資金	岩手県	4
交通遺児大学奨学生	交通遺児育英会	2
計		264

[自己評価・改善計画]

学生生活への満足感を得るためには、「学生が相談しやすい雰囲気づくり」が大切である。本学の「Face to Face」は学生と教職員のコミュニケーションを良好にし、生活のしやすさに繋げている。

本学学生が利用できる奨学金には法人、県、市町村などを含め多くの制度ある。また、病院の奨学金は就職との組み合わせであり、開始時期が弾力的であることが多い。このことが、突然の事態に遭遇した学生にとって、東日本大震災の時のように、強い支援となる。

また、勉学が奨学金を得る条件でもあることを学生に認識させなければならない。奨学金の意味や返還などの学生への指導をしながら、学生がいろいろな状況に遭遇しながらも、卒業できるよう支援する。

3. 就職支援

就職に関する学生への支援活動は就職委員会と就職に関する窓口である事務部学務課就職係が行っている。また、学生の就職相談はクラス担任やゼミ担当、卒業研究担当の教員が相談にのり、きめ細かい配慮と教職員の連携で行っている。

就職試験を受ける学生への面接指導は、「ハローワーク」からの指導員や職員によって随

時、丁寧に行われている。

学生の就職活動状況を迅速に把握することは、その後の対応のため、非常に重要である。本学では教員(クラス担任、就職委員、ゼミ担当教員等)と就職係の事務職員が相互に連携を図りながら、協働で就職活動状況を把握し、迅速な学生支援を行っている。最終的には教授会において全学の就職状況を知ることができる。

平成 24 年度後期からは、就職支援活動への参加率の向上、働くことの意識づけ、職業 観の確立を目的に、3 年生後期の時間割に「就職ガイダンス」の時間を設けた。他の学年 の学生も出席が可能である。

(1) 就職支援活動

	活動	内 容
		看護学科は3・4年生全員が参加。福祉学科は希望者が参加。
5 月	合同就職面談会	全国約 60 病院関係者との直接面談。参加病院へは就職活動
		等に関するアンケートを実施した。
7 🗆	4年生向け	外部講師による「履歴書の書き方」「面接対策」
7月	就職ガイダンス	
	第1回3年生対	外部講師、教職員等による講話。
10 月	象就職ガイダン	
	ス	
	第2回3年生対	4年生による就職内定者報告会。
11 月	象就職ガイダン	
	ス	
	第3回3年生対	外部講師による「履歴書の書き方」「マナー講座」
12~1 月	象就職ガイダン	
	ス	
通年	個別に対応	面接練習、小論文、履歴書の書き方など相談・指導

- ◆働くことの意識づけ、職業観の確立のために行っていること
- ・クラス担任:1年次5月に行う個別面接において、卒業後の進路についての意識を持つようにする。以後、随時面談を行う。
- ・早期体験実習(看護学科):1年前期に病院での実習を行う。看護職の業務・役割を知り、 看護の重要性を認識する。
- ・合同就職面談会:病院関係者との直接面談(看護職、福祉職)
- ・就職ガイダンス:教員、外部講師、卒業生、内定した4年生等による講和。
- ・特別講演(看護学科):看護職を目指す学生の見識を拡げ、意識の高揚を図ることを目的とする。

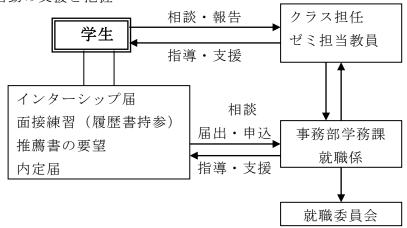
◆平成24年度後期 3年次「就職ガイダンス」の内容

	4 中皮仮物 3 中仏・桃椒パイクンハ」の内谷	±□ // →.
回数	項 目	担当者
1	就職ガイダンス(3年生)	就職委員会委員長・副委員長
	事務就職担当者講話	
	・就職活動の流れ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
2	・就職支援ガイドブック配布	事務部学務課就職係
	• 就職登録	
	Forth ()	福祉学科 赤羽卓朗教授
3	「職につくこと」(1回目)	看護学科 田口牧子教授
4	就職に関する心構え(3年生、1・2年生は希望者)	ハローワーク
5	就職ガイドブックについて	事務部学務課就職係
6	面接の仕方(3年生。1・2年生は希望者)	ハローワーク
7		福祉学科 吉田守実講師
	「職につくこと」(2回目)	看護学科 佐藤光子教授
8	4年生内定報告会	
9	マナー講座 (3年生、1・2年生は希望者)	マイナビ
10	「知って役立つ労働法	秋田労働局
	-働くときに必要な基礎知識-」	
	(内容:労働法について、働くときのルール、	
	仕事を辞めるとき、辞めさせられるとき、多様	
	な生き方 など)	
11	履歴書の書き方 (3年生、1・2年生は希望者)	ハローワーク
12	個人登録票下書き	
13	面接講座(3年生、1・2年生は希望者)	マイナビ
14	看護学科:就職ガイダンス	
	(3年生、1・2年生は希望者)	
	福祉学科:個人登録票清書	
15	個人登録票清書	

◆大卒ジョブサポーターによる学内相談会

平成 24 年 10 月・11 月の水曜日午後、ハローワークのジョブサポータによる学内相談会を行っている(予約制)。

◆就職活動の支援と把握



◆就職・進学先(平成24年3月卒業生)

<看護学科>

秋田県:大館市立総合病院、秋田労災病院、JA 秋田厚生連、市立秋田総合病院、

市立横手病院、八峰町職員(保健師)

青森県:弘前大学医学部附属病院、八戸市立市民病院、津軽保健生活共同組合、

八戸赤十字病院、八戸西病院、弘前地区消防事務組合

岩手県:岩手医科大学附属病院、岩手県医療局、盛岡友愛病院

宮城県:東北大学病院、仙台市職員(仙台市立病院)、仙台社会保険病院、

仙台厚生病院

山形県:山形大学医学部附属病院、山形県·酒田市病院機構

新潟県:新潟大学医歯病院

栃木県: 宇都宮社会保険病院

埼玉県:防衛医科大学校病院、行田総合病院

千葉県:千葉大学医学部附属病院、千葉社会保険病院

東京都:東京大学医学部附属病院、昭和大学附属病院、東京女子医科大学病院、

帝京大学医学部附属病院、国立成育医療研究センター

神奈川県:横浜市立大学附属病院、聖マリアンナ医科大学、北里大学病院、

東名厚木病院、横浜労災病院、日本鋼管病院

静岡県:順天堂大学医学部附属病院

進学:弘前大学大学院、日本赤十字秋田看護大学大学院

<福祉学科>

秋田県:(社福)大館圏域ふくし会、(社福)水交苑、鹿角中央病院、(医)光智会、(医) **恵愛会、(医) 久幸会、(医) 祐愛会、(社福) 相和会、(社福) 柏仁会、(社福)** 秋田虹の会、秋田県立病院機構、(社福)ファミリーケアサービス、(社福)横 手福寿会、(有) つなぎの里、(有) チョウカイ

青森県:(社福)七蜂会、(社福)和幸園

岩手県:(社福)博愛会、国立病院機構釜石病院

茨城県:(社福) 正和会

東京都:東日本旅客鉄道(株)、(社福)池上長寿園

進学:弘前大学大学院

◆平成24年3月卒業生 就職先 職種別(社会福祉学科) 25人

職種	人数	職種	人数
介護老人福祉施設	8	障害者支援施設(知的・身体・精神)	7
介護老人保健施設	1	有料老人ホーム・福祉関連企業	2
医療機関	6	その他(福祉以外)	1

(2) 卒業生への就職支援アンケート

平成 23 年度、就職委員会では卒業生を対象に本学の「就職支援活動」を評価するため、 アンケート調査を行った。

- ◇対象者:本学を卒業した全員を対象とした。平成 21 年 3 月卒業生 83 人、平成 22 年 3 月卒業生 82 人、平成 23 年 3 月卒業生 93 人の合計 258 人である。
- ◇調査方法:調査期間は平成 23 年 10 月から平成 23 年 11 月。無記名自記式質問紙法による。調査用紙は対象者の職場に郵送した。留め置き期間は 4 週間である。
- ◇質問項目:本学で実施されている就職支援事業における参加または利用状況を調査し、 参加または利用したと答えた者にはその評価(とても役にたった、役に立った、余り役 に立たなかった、全く役に立たなかった)と就職情報の収集方法を聞いた。さらに、自 由記載欄を儲け本学の就職支援活動等についての意見を求めた。

◇就職支援活動の内容

- 1) 学外講師が関わる就職支援活動
 - ①合同就職面談会:秋田県内・東北・関東から参加する病院関係者との面談。例年、 50以上の施設が参加する。
 - ②病院説明会:説明会を希望する病院人事担当者とその病院に就職した学生による説明会。
 - ④3 年生対象、学外講師による就職講演会:医療機関における看護師採用活動をサポートする業務を担当している学外講師による就職状況・履歴書の書き方などの講演会
 - ⑤3年生対象 マナー教室:学外講師によるビジネスマナー講座
- 2) 学内における就職支援事業
 - ①3年生対象就職ガイダンス:就職委員・事務職員による就職の現状についての講話。
 - ②クラス担任との就職に関する面談・相談
 - ③ゼミ担当教員との就職に関する面談・相談
 - ④面接の練習など、事務職員との面談
 - ⑤履歴書の書き方の相談 (クラス担任、ゼミ担当教員、事務職員)
 - ⑥内定者報告会:4 年生学生で就職先が内定した学生が、就職先を決定し、試験を受けるまでの経験やアドバイスを3年生学生に報告する。
 - ⑦就職資料室の利用

◇倫理的配慮:調査の目的、アンケートへの協力は任意であり、アンケートへの協力の有無により本学との関係において利益もしくは不利益が発生することがないこと、質問紙は無記名であり調査用紙はすべて番号で処理され、個人が特定されることがないことなどを紙面で説明し、アンケートの回答をもって同意とみなした。本調査は秋田看護福祉大学倫理委員会の承諾を得て行われた。

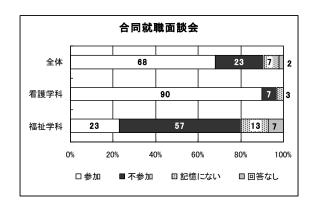
◇結果

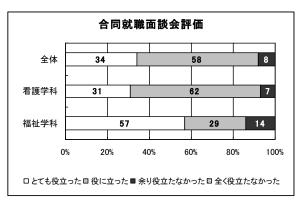
看護学科卒業生 63 人、社会福祉学科卒業生 30 人の合計 93 人から回答があった。回収率 36.0%、有効回答率は 96.8%だった。有効回答が得られた看護学科 61 人、社会福祉学科 29 人を分析対象とした。

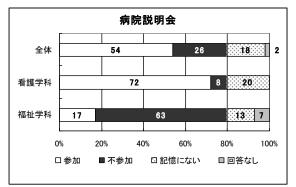
学外講師が関わる就職支援事業への参加率は 60%未満であり、特にマナー教室の参加率が低かった。病院に係わる合同就職面談会、病院説明会、インターシップでは、看護学科と社会福祉学科で参加率に差があった。

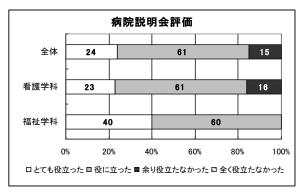
就職支援事業に参加、あるいは利用した者の 90%以上が「とても役に立った」「役に立った」と答えており、評価が高かった。社会福祉学科において、ゼミ担当教員との面談・相談は「とても役に立った」「役に立った」を合わせて 100%だった。情報収集の方法については、就職先のホームページが多かった。

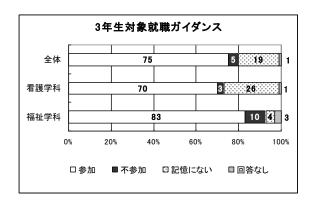
自由記載による就職支援活動における意見では、県内外を問わない求人情報や職種・業種に関わらない幅広い情報の提供が求められていた。また、就職資料室の充実を求める意見が多かった。合同就職相談会の有用性については、多くの病院が参加し、一度に情報を得ることが出来、有効であったとの意見が多くあった。個別指導体制への評価については、教員や職員は学生に対し丁寧に個別対応しており、有難かったとの意見が多かった。

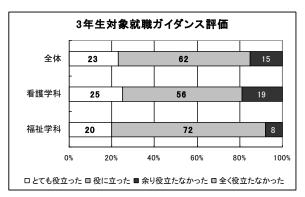


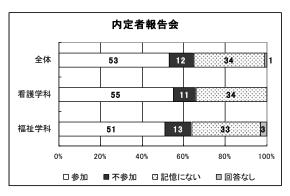


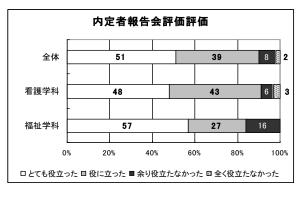


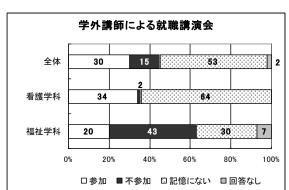


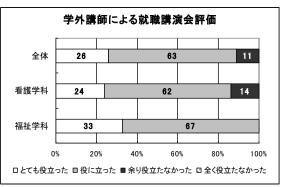


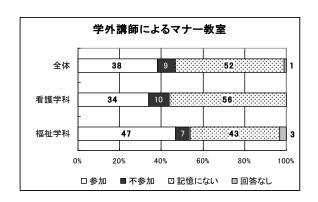


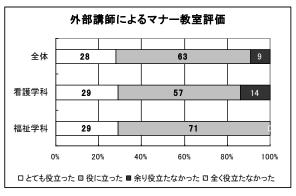


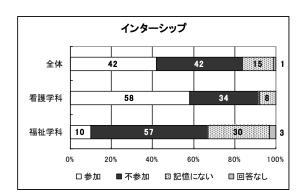


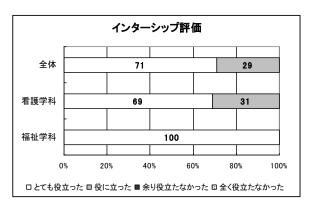


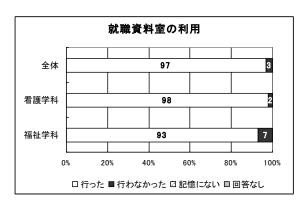


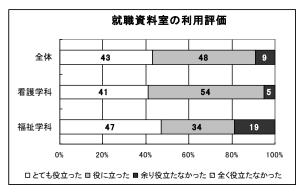


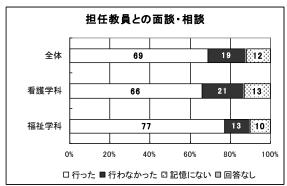


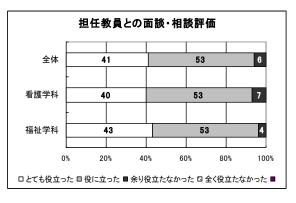


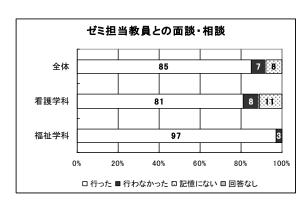


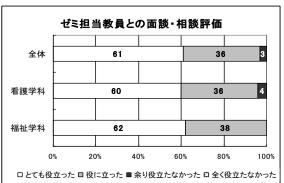


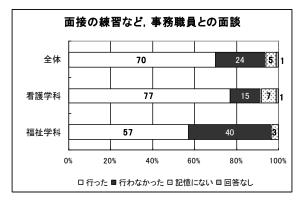


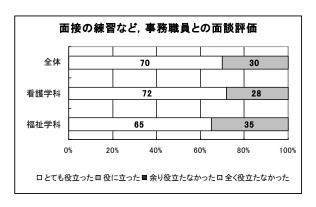


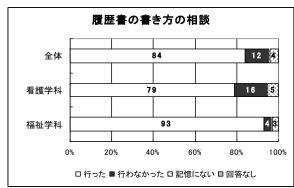


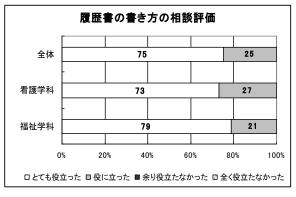


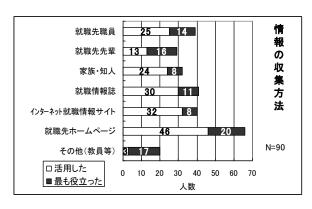


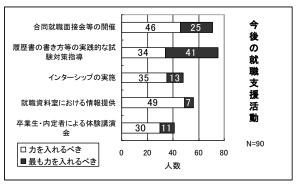












<自由記述> (要約)

- ①本学の就職支援活動について
 - <合同就職面談会>
 - 一度に多くの情報が得られ、非常に役立った。
 - <インターシップ>

就職活動に結びつくので、インターシップ参加者を増やすとよい。

<個別指導体制>

教職員による面接・小論文・マナーなど、時間外でも対応してくれたので、助かりました。

<就職情報の提供>

秋田県以外の資料、保健師の募集、先輩からの情報、障害者分野への就職の資料が欲しい。

- ②本学を含み、大学などの専門職養成機関の教育内容やカリキュラムについて
 - ・実習生をみていると、文章を書く力のない人、質問することのできない人が増えてい

るようです。

- ・パソコンの使い方、レポートの内容・書き方が評価されます。大学のカリキュラムの お陰と思います。
- ・実習には具体的な目標を持って来て欲しい。
- ・職場での体験を増やして即戦力のある学生を育てて欲しい。

③その他

- ・本学を卒業したということに、大変感謝しています。今後も多くの福祉従業者が社会 で活躍できるよう、後輩たちを育てて欲しいと思います。
- ・小人数制ならではの学生と教員間の適正な距離感、コミュニケーションの取りやすさ、 きめ細かなサポートがとても嬉しく、心強かったです。
- ・先生方と良い信頼関係を築けるのが本大学での良い点だと思います。

[自己評価および改善計画]

各就職支援活動は活発に、スムーズに行われ、就職内定者は迅速に把握されている。ゼミ担当者・クラス担任・就職委員会・事務部学務課就職係が密に連携した支援活動を行っており、本学の設立以来 100%の就職内定率をもたらしている。

本学のこれまでの就職支援活動の評価を知るために、卒業生への就職支援活動に関するアンケート調査を行った。卒業生の就職支援活動への評価・要望をふまえ、次のことを迅速に実施する。

- ①事前の学生へのアナウンスを充実させて学生の各就職支援事業への参加を促す。
- ②4年生の就職内定報告会には教員のアドバイスも必要である。
- ③福祉学科学生のインターシップ参加を出来るだけ多くする。
- ④合同就職面談会に多くの福祉学科の学生が参加できるように、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士の募集がある病院の参加を求める。
- ⑤就職資料室の充実のため、資料などの見直しを行い、引き続き就職先の情報、就職試験情報を集積する。平成 24 年度、働くことの意識づけ、職業観の確立および就職支援活動への学生の参加を多くすることを目的に、時間割に「就職ガイダンス」の時間を設けた。このことが学習へのモチベーションを向上させ、「主体的な学び」に繋がるものと期待している。

第6章 地域貢献活動

1. 地域の委員会・審議会等への本学教職員の派遣

地域の委員会等への要請に対しては積極的に応じている。平成 **24** 年度の派遣は次のとおりである。

「大学コンソーシアムあきた」理事	田中 禮子 学長
「大学コンソーシアムあきた」運営委員会委員	此口 排 教授
「大学コンソーシアムあきた」活動推進部会委員	柴田 博 教授
「大学コンソーシアムあきた」企画開発部会委員	岩間 薫 教授
第 29 回国民文化祭秋田県実行委員会委員	田中 禮子 教授
大館市立総合病院治験審査委員会委員	田中 禮子 教授水木 暢子 教授
大館市生涯学習協議会委員	熊谷浩司 マネージ・ャー
おおだて発人間力創造コンソーシアム運営委員会委員	田中 禮子 教授
大館市企業誘致促進協議会委員	田中 禮子 教授
大館市次世代育成支援対策地域協議会委員	岩間 薫 教授
秋田県准看護師試験委員	岩間 薫 教授
大館市保健センター運営委員	日景真由美准教授
保健師の人材育成のあり方検討会委員(秋田県)	日景真由美准教授
ふるさとキャリア教育推進協議会委員	赤羽 卓朗 教授
秋田県社会福祉審議会委員	柴田 博 教授
大館市障害者施策推進協議会委員	柴田 博 教授
大館市障害程度区分認定審査会委員	柴田 博 教授
大館市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員	柴田 博 教授
社会福祉法人大館市社会福祉事業団「苦情解決第三者委員会」委員	村田 道彦 講師
大館市障害者自立支援協議会委員	村田 道彦 講師
大館市環境審議会委員長	奥野 智旦 教授
秋田県感染症診査協議会委員	佐藤 孝 講師
大館鹿角地域保健医療福祉協議会委員	佐藤 孝 講師
秋田国際情報学院中学校・高等学校評議員	佐藤 公彦 教授

2. 講演等

平成24年度の講演等の依頼は次のとおりである。

年月日	テーマ	主催	会場	講師等
		秋田県・秋田県	旧料亭「金勇」	看護学科
平成 24 年	DVについて	人権啓発活動ネ	(能代市)	岩間 薫 教授
		ートワーク協議		
6月30日	「高校生サミ	会、秋田県北		
	ット」コーディ	NPO 支援セン		

	. L	<u> </u>		
	ネーター	ター「ハーモニ		
		ーフィスタ		
		2012」		
平成 24 年	知事と県民の意	秋田県北秋田地	北欧の森公園	堀江絢菜
7月31日	見交換会	域振興局	(秋田県北秋田	(看護学科
			市)	4 年生)
9月29日	自治体研究費獲	日本私立看護系	アルカディア市	看護学科
	得の工夫により	大学協会「学術	ヶ谷(私学会館)	岩間薫 教授
	充実した研究成	研究および学術	(東京都)	
	果につなげる方	研究体制 • 研究		
	法一女性の健康	助成に関する平		
	支援対策事業に	成 24 年度研究		
	関する思春期か	セミナー」		
	らの健康支援モ			
	デル事業一			
11月20日	出前授業	北秋田市教育委	秋田県立北鷹高	看護学科
	「ピアカウンセ	員会生涯学習課	等学校	岩間薫 教授
	リング」			「B 愛(ラブ)
				STAR ピアサー
				クル」
11月20日	「がん検診推進	秋田県健康福祉	大館市保健セン	「受診率向上
	タウンミーティ	部保健推進課	ター	に向けて~自
	ング in 大館」	がん対策室		分達にできる
				こと~」
				発言者
				菅原いづみ
				高橋瀬津
				(看護学科
				4 年生)
L	1	l	l	l .

3. 大学公開講座

本学および大館市の共催による大学公開講座は本学の前身である秋田桂城短期大学が開 学する1年前の平成7年から開催されている。

◆平成24年度 第18回大学公開講座

- ・ 趣旨:市民の生涯学習への要望が益々多様化・高度化の傾向にあることから、これら の要望に応えるために秋田看護福大学と大館市との共催で公開講座を開設する。
- 主催 秋田看護福祉大学、大館市生涯学習推進本部、大館市教育委員会
- 会場 秋田看護福祉大学

- · 時間 18時30分~20時30分
- 内容

月 日(曜日)	テーマ	講師	
平成 24 年	日本人とがん予防 ~あなたとあなたの大切な	水木 暢子 教授	
7月10日(火)	人の生命を守るために~	小小 物丁 教授	
7 日 11 □ (→k)	障害のある方々が就業して生活する地域社会で	佐織 壽雄 講師	
7月11日(水)	あるために	上海 詩雄 再則	
7月12日(木)	こども虐待 ~家庭環境からみえてきたもの~	駒ヶ嶺裕子助教	

4. 「大学コンソーシアムあきた」の事業

本学は秋田県内の高等教育機関で構成されている「大学コンソーシアムあきた」に加入 しており、以下に記載している事業に参加している。

◇構成機関(14)

秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田看護福祉大学、 日本赤十字秋田看護大学、秋田公立美術工芸短期大学、秋田栄養短期大学、聖霊女子 短期大学、日本赤十字短期大学、聖園学園短期大学、秋田工業高等専門学校、放送大 学秋田学習センター、秋田職業能力開発短期大学校

1) 高大連携授業

平成24年度に行った高大連携授業は次のとおりである。

◆平成24年度 高大連携授業(再掲)

月 日(曜日)	テーマ	講師
福祉につい	いて -4日で学ぶ福祉の仕事-	(福祉学科)
6月2日(土)	少子高齢化社会と社会福祉の役割	赤羽卓朗 教授
6月16日(土)	障害のある人々の生活と支援	柴田 博 教授
6月23日(土)	福祉の仕事ーその役割と意味	村岡則子 准教授
6月30日(土)	高齢化における介護について	村田道彦 准教授
看護の魅力とす	可能性 -看護学のこれからを探る-	(看護学科)
7月7日 (土)	癒しがもたらす看護の力	今野 修 助教
7月14日(土)	安全な医療	田口牧子 教授
7月21日(土)	リラクセーション技法を学ぼう	水木暢子 教授
7月28日(土)	赤ちゃんと楽しい沐浴	村上京子 教授

◆高大連携授業アンケート (平成 24 年度)

この授業を受けた生徒に対するアンケート調査の結果は次の通りである。なお、このアンケート調査は「大学コンソーシアムあきた」事務局が行ったものである。

(土曜日開講)	福祉について (4回)	看護の魅力と可能性(4回)	
受講申込者	12 人	33 人	
	1回目7人 2回目5丿	1回目19人 2回目16人	
参加者	3回目3人 4回目8/	3回目18人 4回目14人	
アンケート回収	8人 (66.7%)	14 人(44.2%)	
24 fr	1年生2人 2年生2/	1年生2人2年生6人	
学年	3年生5人	3 年生 6 人	
性別	女性7人 男性1人	女性 13 人 男性 1 人	
	大学 6人	大学 12人 短大 1人	
卒業後の進路	専修・各種学校 1人	就職 1人	
	未定 1人		
	高校教員からの情報 7/	高校教員からの情報 7人	
開講を何で知っ	募集案内チラシ 1/	ポスター 1人	
たか		募集案内チラシ 5人	
		家族からの情報 1人	
	進路 5 /	進路 10人	
受講の理由	興味のある科目 3/	大学の授業を聴講したかっ	
文神の垤田		た 3人	
		受験勉強に役立つ 1人	
 授業内容の理解	だいたい理解できた 6人	体理解できた 8人	
1文末門春の垤牌	十分理解できた 2人	十分理解できた 6人	
	 高校総体	高校総体 1人	
欠席の理由	同	- テスト・文化祭 2 人	
	7八十 天旧宗 6八	その他 1人	
科目分野への関	変わらない 3人	変わらない 3人	
心	関心がわいた 5人	関心がわいた 11人	
7.5	関心がなくなった 0人	関心がなくなった 0人	
開催曜日	今のままでよい 8人	今のままでよい 14人	
週1回の授業に		同週連続日がよい 1人	
一	今のままでよい 8人	長期休業中集中授業 1人	
		今のまま 12人	
授業回数につい	ちょうどよい 7人	ちょうどよい 14人	
て	少ない 1人		
自由記載	全員が分り易く、ために	な 実践的授業で面白かった。欠席	
	った。欠席したのが残念	だ が残念だった、より興味がわい	

った。	た。大学の雰囲気を感じること
	ができた。この大学にますます
	来たくなった。大学での勉強が
	楽しいものだと感じた。

今後について

高大連携授業に対する高校生による評価は非常に高い。実践的な講義内容であることから、生徒も興味を感じ、楽しく授業を受けられたと思われる。最も課題になるのは開催時期である。来年度はこの点を改善することで、欠席せざるを得ない生徒の数を減らし、参加を申し込んだ生徒の期待に応えたい。

2) 単位互換授業

距離的な問題もあり、本学への申込みはない。また、本学のカリキュラムは必修科目が 多く、学生は他大学(秋田県)の授業に出席することができない。

提供する科目は専門科目でなく、専任教員によるものとしている。本学の教養科目は非 常勤講師に依頼することが多いことから、少ない提供科目数となっている。

◆平成24年度 秋田看護福祉大学単位互換授業

授業科目名 担当教員		単位数	学期	受入れ数
社会学	村岡 則子	2	前期	若干名
化学	奥野 智旦	2	前期	若干名
医療と福祉のマネジメント	田口 牧子・赤羽 卓朗・庄司 光子	2	後期	若干名
生命科学	奥野 智旦	2	後期	若干名
リフ゜ロタ゛クティフ゛・ヘルス/ライツ	岩間 薫	2	後期	若干名
健康づくりと生活	佐藤 孝・田中 禮子	2	後期	若干名

5. 学生と共に! ピアカウンセリング活動

1) ピアカウンセリング活動の立ち上げ

秋田県では、20歳未満の人工妊娠中絶数が増加していることに加え、性感染症・エイズなどの報告件数が全国的に減少傾向にないことから、平成 13(2001)年度より思春期健康教育の手法に一つであるピアカウンセリングの実践を通じ、青少年の望まない妊娠や性感染症を予防するための自己決定能力向上に向けた取組みを推進してきた。すなわち、平成14(2012)年度から「健やか親子21」による思春期対策の効果的な手法として、ピアカウンセリング活動が推奨される前年度より、秋田県ではピアカウンセリング事業に取り組んでいる。その後、平成17(2005)年度から平成20(2008)年度までは、ピアカウンセラー養成者の所属する秋田看護福祉大学が北秋田地域振興局大館福祉環境部から、平成21年度から平成22年度までは、秋田健康推進課より事業委託を受けて実施している。

2) 秋田県におけるピアカウンセリング活動

秋田県における思春期ピアカウンセリング事業は、平成 13 (2001) 年度から平成 15

(2003)年度までは、秋田中央健康福祉センター(現、秋田中央地域振興局福祉環境部)の事業として行われた。3年間の事業を通じ、徐々に管内の高校関係者の理解が深まり、県内の他地域振興局福祉環境部でも、養成されたピアカウンセラーを活用し、高校生へのピアカウンセリングの実践など、普及面においても着実な進展がみられた。

平成 16 (2004) 年度からは、学校の枠組みを超えたピアカウンセラーの養成、県内各地での高校生へのピアカウンセリングの実践など、全県的な推進に向けて、秋田県健康福祉部健康対策課の事業として実施された。全県の大学生および看護学生を対象とした養成セミナー(ベーシックセミナー)が秋田市内で開催され、11 名のピアカウンセラーが養成され、秋田市と横手市でピアカウンセリングの実践が行われた。

3) 思春期ピアカウンセリング事業を本学へ事業委託

平成 17(2005)年度から北秋田地域振興局大館福祉環境部において、秋田県の思春期世代の人工妊娠中絶率が全国を上回っていること、思春期世代の抱える悩み、性情報の氾濫・誤った知識による性行動などを背景とし、若者たちには、正確な情報提供や自己決定能力向上のための支援が必要であることから、教育と地域保健、関係機関などが連携した思春期保健対策の基盤整備を進め、北秋田地区の次世代を担う子どもたちの健やかな成長を目指すことを目的に、局独自の予算である調整費事業を活用し、「いきいき北秋田思春期へルスサポート事業」が開始された。この調整費事業は基本的に短年度予算であるため、平成18(2006)年度からの3年間は「あきた 21 総合計画・第3期実施計画」の地域版「大館・北秋田地域計画」として、実施されることになった。

この事業は、関係機関との体制整備のための「トップセミナー、研修会及び検討会の開催」と、ピアカウンセラーの育成・支援のための「ピアカウンセリング事業」が2つの柱となっている。そのうち、「ピアカウンセリング事業」を管内唯一の4年制大学であり、養成者(筆者)の所属する当学が事業委託を受けて実施するという、全国で唯一の事業実施形態で行われることになった。中・長期的な効果としては、①学校と地域が連携した思春期教育の取り組みができる、②地域で思春期世代を見守る環境ができる、③秋田看護福祉大学単独でのピアカウンセリング事業の実施ができるという、3つの効果が掲げられた。

その後、4年間の事業を終えて、①思春期保健関係者を対象にした講演会やグループワークなどを行い、また対象者を思春期保健関係者だけでなく、広く保護者や地域住民を含めた講演会とシンポジウムを開催してきたこと、②思春期保健を協議する組織として「思春期保健ネットワーク会議」を設置できたこと、③ピアカウンセリングという手法を確立できたことは大きな成果であったと評価された。

4 年間でピアカウンセラーをベーシックセミナーで 46 名、フォローアップセミナーで 26 名を養成し、平成 17(2005)年度以降、4 回から 8 回へと年々ピアカウンセリングの実践回数を増やし、さらに秋田市や能代市などの管外で実施を行うなど、徐々に管内の高校および中学校関係者への理解も深まり、着実な進展がみられた。

4) 秋田県健康推進課から本学へ事業委託

平成 21(2009)年度「女性の健康支援対策事業における思春期からの健康支援事業(高校生を対象にしたピアカウンセリングの開催等)」、平成 22(2010)年度「思春期からの健康支援モデル事業(高校生を対象としたピアカウンセリングの開催等)」として、これまでに養成を受けた思春期ピアカウンセラー(大学生)が、中高校生を対象にピアカウンセリング

を実施し、中高生の健康づくりに関する情報提供を行うことや、北秋田地域振興局大館福祉環境部管内をモデル地域とし、思春期からの健康支援体制の効果的に推進することを目的とし、これら思春期ピアカウンセリング事業を養成者のいる本学が事業委託された。

平成 21(2009)年度以降 2 年間で、ベーシックセミナーで 19 名、フォローアップセミナーで 12 名のピアカウンセラーを養成した。

このように、時代の流れ、社会のニーズに応じながら、ピアカウンセリング活動を実践 し、徐々にではあるが、県内の高校および中学校関係者への理解も深まり、着実な進展が みられている。

(岩間薫:「秋田県における思春期ピアカウンセリング活動」 -平成 13年(2001)年度から 平成 22年度(2010)年度 -、秋田看護福祉大学総合研究所「研究所報」第 6 号、p1-11、平成 23年 3月.)

5) 自治体からの委託事業

年度	事業名	実施主体
平成 17 年度	いきいき北秋田思春期ヘルスサポート事業	
	(北秋田地域振興局調整事業)	
平成 18 年度	いきいき北秋田思春期ヘルスサポート事業	
平成 19 年度	(北秋田地域振興局地域別計画推進事業)	北秋田地域振興局
平成 20 年度		大館福祉環境部
平成 21 年度	女性の健康支援対策事業における思春期か	
	らの健康支援事業(高校生を対象としたピ	
	アカウンセリングの開催等)	
平成 22 年度	性の健康支援対策事業における思春期から	
平成 23 年度	の健康支援モデル事業(高校生を対象とし	秋田県健康福祉部
	たピアカウンセリングの開催等)	健康推進課
平成 24 年度	思春期ピアカウンセリング事業	

◆平成24年度 思春期ピアカウンセリング事業

目的: 思春期から主体的な健康づくりが実践できるようにするため、ピアカウンセラー 養成者を有する大学に委託し、ピアカウンセラーの養成とピアカウンセリングに よる健康教育等を実施する。

養成を受けた大学生等が、中学生、高校生を対象にピアカウンセリングを用いた健康教育・健康相談を行い、健康づくりに関する情報提供を行う。

実施主体:秋田県健康福祉部健康推進課

事業内容:

- (i) ピアカウンセラーの養成
 - ・思春期からの健康づくりに関して、ピアカウンセリングを用いた活動を実践する 意志のある大学生等の養成研修
 - ・活動を実践しているピアカウンセラーへの継続研究
- (ii) 中高生への健康教育・健康相談

- ・中学校、高校等でのピアカウンセリングやピアエデュケーションの実施 7校
- ・地域でのピアルームの開催 5回
- (iii) ピアカウンセリングによる健康教育・健康相談での、知識や意識の変化の評価
- (iv)・事業実施状況報告書の作成 (冊子及び電子媒体)

実施期間: 平成 24 年 7 月 1 日~平成 25 年 3 月 31 日

6) 平成24年度活動記録(平成24年10月13日現在)(岩間薫教授) 活動は秋田看護福祉大学"B愛STARピアサークル"と共に行った。

<ピアカウンセラー養成セミナー>

	月 日	ベーシックコース	フォローアップコース
1	平成 24 年 8 月 18 日 (土) ~21 日 (火)	実施1回・養成者19名	
2	平成 25 年 3 月 2 日 (土) ~3 日 (日)		実施1回

<ピアカウンセリングの実施>

	月日	ピアエデュケーション	ピアカウンセリング	ピアルーム
-1	平成 24 年			秋田看護福祉大学
1	4月20日(金)			実施1回・参加者40名
			高校サミット (ハーモ	
2	6月30日(土)		ニーフェスタ 2012)	
			実施1回・参加者7名	
	0 8 8 8 (0)		由利本荘市立由利中学校	
3	9月7日(金)		実施2回・受講者48名	
				いとく大館ショッピン
4	9月9日(日)			グセンター
				実施1回・参加者16名
				ホテルクラウンパレス
	0 0 1 1			秋北(あきた協働ウイ
5	9 月 15 日			ーク・県民協働フェス
	(日)			タ 2012)
				実施1回・参加者10名
			大館市下川沿中学校	
6			実施1回・受講者18名	
	9 月 21 日	大館工業高等学校		
7	(火)	実施1回・受講者130名		
	10 月 20 日			秋田看護福祉大学(大
8	(土)~21 日			学祭)
	(日)			実施 1 回
	11 月 28 日			大館工業高校(文化祭)
9	(目)			実施 1 回
10	11 月 16 日	小坂高等学校		

	(金)	実施1回・受講者80名		
11	11 月 20 日		北鷹高等学校	
11	(火)		実施 1 回	
10	11 月 22 日		大館市立花岡中学校	
12	(木)		実施 1 回	
	12 月 1 日			秋田拠点センター
13	(土)			ALVE
	(1.)			実施 1 回
14	平成 25 年		角館高等学校	
14	3月8日(金)		実施2回・受講者60名	

6. 学生と共に! 鹿角市地域力再生支援事業への協力

秋田県鹿角市は、平成 23 年度を初年度とする 3 か年事業「集落支援事業」を開始し、地域住民自らが集落再生の糸口をつかみ、持続可能な住民自ら地域社会づくりに取り組むことを目的に、市内 3 つの集落(自治会)を指定し取り組みを開始した。この事業では、地域に埋もれているとされる気付かない魅力を引き出し、住民自らが主役となって地域を活性化することを目指し地元集落(自治会)、行政、本学の三者が連携して推進する。

本学の協力趣旨は、地域の活性化の重要部分を占めると思われる元気高齢者の方々の活躍場面の創出や健康増進や生きがい活動への支援を重点に、地域福祉活動に意欲を持った本学学生が協力していくことである。

事業初年度にあたる昨年平成 23 年度は、鹿角市と協働でモデル集落における悉皆(しっかい)調査(全ての家屋を対象とした調査)を行った。それを受けて今年度は、その調査の結果をそれぞれのモデル集落に報告するため、地域座談会を開催し、地域の現状や問題点や可能性を共有する活動を行っている。この報告会において本学学生は、調査員補助、調査結果発表と提言、報告会での調査結果の解説や地域活性化に向けた提案、座談会における司会補助といった様々な役割を担い、地域の方々とともに地域づくりの一助になるよう活動を行っている。

昨年度から本学が参加協力している地域は、鹿角市尾去沢地区にある三ツ矢沢中新田集落と下新田集落、同市十和田地区にある甚平工川原集落の3集落である。尾去沢地区にある三ツ矢沢中新田集落と下新田集落は両地区の意向により1集落として実施している。どの地区も、少子高齢化と人口減少の中で、高齢者世帯の増加や耕作放棄地の増加、伝統文化の喪失などの様々な課題が発生している。この事業はまさにそのような現状から地域ぐるみで歩みだし、集落が元気を出して自らの地域を再生していくために必要なことは何か、そして地域住民らが集落再生の糸口をつかみ、持続可能な地域社会づくりに取り組むにはどうしたらよいかを集落住民の皆さんとともに考え支える事業である。

鹿角市では、今年度から事業名を「鹿角市集落支援事業」から「鹿角市地域力再生支援 事業」に改め、専門講師の招聘や先進地視察などを通してより具体的なモデル事業の実施 提案を行いながら、集落住民の主体的な取り組みを支援することとしている。 鹿角市は昭和 47 年 4 月 1 日に鹿角郡内の 4 カ町村(花輪町、十和田町、尾去沢町、八幡平村)の合併により誕生し、当時の人口は 49、691 人だった。2012(平成 24)年 11 月末時点では、人口 34、445 人、男 16、129 人、女 18、316 人、13、388 世帯(住民基本台帳しらべ)と減少した。

経済的には、農業と鉱業が産業の主役を占める時代が長く、その中で中心的な役割を果たしてきた鉱業の衰退は労働人口の大規模な流出をもたらし大きな影響を与えた。鉱山の街として栄えた尾去沢鉱山は、和銅年間に発見されてから奥州藤原氏から江戸時代に最盛期を迎え閉山に至るまで、市域に大きな経済力効果を与えたといわれる。

1) 集落座談会

昨年度の調査の結果を踏まえ、今後どのような地域における活動が実行可能なのかを話し合う機会として両集落の自治会館でそれぞれ $1回\sim2$ 回の座談会を開催した。

(i) 甚平工川原集落「座談会」の様子

この集落では、平成24年6月19日に第1回目の座談会が地区にある自治会館11人が 出席し開催された。座談会は市役所職員がファシリテーターを務め、本学学生も住民のグループに入り2班構成で実際に取り組んでみたい3つの事項についてワークショップを行った。

取り組みたい事項は、昨年度の座談会で話しあった結果導かれた「自然の恵みを活かしブランド化を行う〜みんなと寄り添い住民同士支えあう〜」を基本目標として進められ、カード整理法を用いながらグループによる話し合いを進め、取り組み(案)として①山の湧水活用(販売など)、②グラウンドの活用(桜の名所など)、③伝統行事の継続(お墓参りなど)が出され、全体で共有するため模造紙を活用し(ポスター)発表を行った。意見交換の中で「青年会が企画して演芸会をやっていた。」、「ゴルフの打ちっぱなしができないか。」、「喫茶店が湧水をくんでいた。」また、「昔は、カラオケ大会を開いていた。歌手の北島三郎さんや氷川きよしさんが歌いに来てくれたらいいけど!」等盛んに意見が出された。その結果、①山の湧水については「水質検査をして、みんなで使用できる水汲み場を作りたい。」、また、グラウンドの活用は「交流会を行う場所や機会を作りたい。そして一年の間に運動会やカラオケ大会、花見会、健康運動もしよう。」という方向が導き出された。

(ii) 三ツ矢沢集落「座談会」の様子

この集落では、平成 24 年 7 月 6 日に第 1 回目の座談会が地域の自治会館で中新田・下新田集落の両地区から 15 人が出席し開催された。座談会は甚平工川原地区同様、市役所職員がファシリテーターを務め、本学学生も住民のグループに入り 4 班構成で実際に取り組んでみたい 3 つの事項についてワークショップを行った。

取り組みたい事項として昨年度の座談会で話し導き出された「菜の里~みんなで楽しく自然の中で仲間づくり体力づくり~」を基本目標として進められ、カード整理法を用いながらグループによる話し合いを進め、取り組み(案)として①地元食材を使った料理教室、②山菜も含めた漬物づくり、③集落みんなが健康になるための活動が出され、デン体で共有するため模造紙に貼り付け(ポスター)発表を行った。出席した住民からは、「みんなの

中から漬物名人を決定したら面白いのではないか。」、「山菜のミズ¹を活用したい。」、「農作業が休みの時、健康のためにラジオ体操をしよう。」、「けいらん²の作り方を学びたい。」などの意見が出され、さらに実際どれに取り組みたいかについて意見交換を行った結果、①けいらんづくり、②わらびもちづくり、③健康づくりが導き出されている。話し合いの結果は表 2 のとおりである。

(iii) 集落座談会の成果

今年度本学の学生は座談会の協力という関わりであったが、現場で感じたことや事業の 成果と思われる点をあげと、

第1に、座談会の開催は、両集落で各1回だが、第2回の開催までの間に三ツ矢沢集落では、座談会に参加していた住民の方が、限界集落を意識して鹿角市主催のイベント「でんぱく」へ参加・企画したことである(詳細はIVに記述)。今年の10月と11月の2回にわたり、三ツ矢沢集落の体験ツアーが開催され、県内外から参加があり好評を得ている。昨年度からの地域力再生支援事業の座談会で話し合いを重ねてきた一連のプロセスは、住民に自分たちの住んでいる地域に対する見直しの機会を提供したのではないかと考える。

それは、座談会に参加された住民が、出された意見に対して否定することや座談会参加 人数の減少がないこと、住民同士がいがみ合うことなく進行している点からいえる。それ は、住民の「何とかしたい」という集落に対する関心の高さを伺わせるものである。

第2に、平成23年度の座談会で「取り組み目標」が明確になり、住民間の共通認識が図られていた。そのために引き続き今年度も活発な意見交換が行われており、基本目標から具体的な活動へと構造化した話し合いができている。まだ事業実施までには課題はたくさんあるが、住民の声として地域の再活性に向けて活用できる資源や可能性が見出されたことは大きな成果である。また、ワークショップ形式により話し合いを進めたことが、参加した住民が多様な視点から自らの地域に存在する社会資源や可能性に目を向け、終始和やかな雰囲気で会を勧めることができた要因でもある。

2) モデル地区と本学の学生との関わりについて

本学は住民の健康づくりと福祉の向上を支援する専門職を育てる大学である。昨年の課題であった本学の学生の得意分野をどのように地域に中に活かしていくかであるが、今年度の座談会では健康づくりに関する意見が数多く出され、健康に対する関心が高いと考える。このことから健康づくりをもう一つのサブテーマに自治会館で行われる行事へ出向き、体力測定や体操、レクリエーション活動を通じて「ふれあいいきいきサロン」活動を定着っせる、住民が継続できるような組織づくりを支援したいと考えている。そのためには、本学の専門分野である看護と福祉が連携しそれぞれの専門分野を生かし、地域と協働、協力をしながら引き続き様々な面での連携を進めていくことが必要である。

昨年度、本事業への学生のかかわりを見ると、継続的に参加した学生は数名であった。 その要因は地域住民の中で役割がイメージしにくかったのではないか、また参加しても住 民との出会いの場面は少なく、住民との信頼関係づくりに至らなかった。という反省点が

1 ミズ 秋田では「ミズ」と呼ばれているこの山菜は、正式にはウワバミソウ。山中のあまり日の当たらない沢沿いの湿地に自生している。里山にも群生している。簡単に採ることができ、しかもクセのない味で、漬物や鍋料理の具、炒め物など。出典 いなにわ手綯うどんの寛文五年堂

² けいらん 地元鹿角では伝統的な郷土料理『けいらん』。舞茸のだし汁お吸物に鶏の玉子に見立てた 白玉の餅。餅の中には胡椒が効いたクルミ入りの餡が入る。

挙げられていた。その反省を受け、今年度は、すべての学生に改めて事業の趣旨を説明する機会を設け参加を呼びかけた。その結果、今年度は21名が新たにこの活動への参加している。参加している学生は個人の研究課題や将来の職業を見据えて意欲的に参加し取り組んでいる姿が見受けられ、地域住民からも好評である。今後も地域住民との信頼関係を大切にし、地域の人に頼りにされる関係から生まれる「学生自身の学び」を大切にしたいと考えている。この事業は、話し合いから事業実施に動きだしている。今後とも側面から支えられる学生ならではの活動を見つけ出していきたい。

3) 将来展望

鹿角市地域再生力支援事業のモデル地区はどの地区も、自らの地域に誇りを持ち、郷土愛を支えに地域を再生活性化させようと頑張っている。市の市民共動課は、「集落(自治会から)に住んでいる人自身の意向とその地域の特産、特色を見つめなおし、小さな活動を何か一つからでも始め、その活動実践者を徐々に市内全体に増やしていくような形で集落全体の活性に繋げたい。」というような意向を述べている。そのような中で、本学は住民の健康づくりと福祉の向上を支援する専門職を養成する大学として、地域住民皆が老若男女を問わず生きがいや健康づくり、体操やレクリエーション活動を通じて「住民の絆」の強化支援も進めている。地域づくりの機会を利用し、地域の誰もが集まれる機会を活用し、心身の健康づくり活動、昔遊びや地域の歴史伝承といった世代間交流に繋げ、「元気な高齢者があふれる地域づくり」を提案している。

2年目を迎えたこの事業は、地域住民と本学学生の信頼関係がやや芽生え、地域住民が集う、その中で地域の宝を生かす活動を行う、そこに学生ボランティアも参加し、みんなで集まって活動することがスタートした年であろう。ふれあいいきいきサロンが開催され、自宅での閉じこもりを防ぎ、地域住民同士の交流場面を通じて生きがいやリフレッシュ効果がられ、笑顔が見られる機会が少しでも増えるのは間もなくである。それが実現することも地域活性化と捉えれば、市の市民共動課の公私協働の促進と一致するはずである。当該モデル集落のうち一地区が一歩を踏み出す目標を設定し、今年度スタートを切っている。現時点では本学との事業における関わりは始まっていないが、健康づくり活動や運動面において協力の要請、同意ができていることは大きな成果である。

今後とも鹿角市市民共動課や両集落の実践者の皆様の求めに応じ、出来る限りの協力を 続けていきたい。もちろん、協力することで地域福祉や地域看護を学ぶ学生のフィールド ワークにもなるからである。

(駒ヶ嶺裕子、吉田守美:秋田看護福祉大学「研究所報」第8号、34-43、平成25年3月)

[自己評価および改善計画]

本学の「大学コンソーシアムあきた」の事業への参画には地理的な問題が大きく影響している。本学の単位互換授業への他大学学生の受講、本学学生の他大学の授業への受講は期待できない。高大連携授業は県北の高校生に、秋田市まで行かずに受けられる大学の授業として期待されている。高校の文化祭、テストなどで参加できなかった生徒が多かったため、来年度からは開催時期に十分に配慮する必要がある。

地域貢献事業は地域の要望に応えることが最優先となる。「ピアカウンセリング事業」はその趣旨が理解されるまでかなりの困難を伴ったが、昨今の社会情勢から、教員1人で

は背負い切れない程の事業となった。他大学の教員の協力を得、学生のボランティアに支えられ、意義ある活動を展開している。他大学の教員との共同活動という点でも意義がある。また、鹿角市の地域活性化事業への協力は、社会福祉士・保健師の卵としての学生がどのような役割を持つか、まだ不透明であるが、今後の展開に期待している。

本学の地域貢献活動は、「学生と教員が共に!」を特徴としている。本学としては、さらに、教員の教育研究活動の拡大に繋がるものとしたい。